



1. 3.11 前の対応： 大都市直下型地震への備えとしての 「東京都区部災害時透析医療ネットワーク」

1) 大都市直下型地震へのハードウェアの対応

大都市直下型地震への最大の備えは、①透析施設の入る建物の耐震化、②長期間使用可能な非常用電源、③大量の貯水タンク、④長期間分の透析器。回路、透析液、抗凝固薬など医療機材のストック、⑤交通機関が使えないときの通院通勤手段の確保、⑥衛星電話、防災無線などの通信機材、⑦食料、燃料の確保、などがリストアップされる。しかしながら、これらの莫大なコストを要する備えを用意できるかは、施設の「体力」に応じて決まる。限られた資産をどのように配分するかが経営者の技量を示すことになる。

2) 大都市直下型地震へのソフトウェアの対応

災害時に透析施設へ被害が及んだとき、その被害の患者への影響を最小限とするための対応が求められる。これがソフトウェアの対応で、患者に関しては、①災害時の患者の避難法、②透析患者の来院帰宅法の確保、③患者被害状況の調査法、④透析施設の被害状況の患者への周知法、⑤被災後の透析の指示伝達法（どこで、いつ透析が受けられるのか）、など。スタッフに関しては、①災害時の非常呼集、②災害対策本部での役割分担、③自施設の被害状況の調査、④周辺の透析施設の被害状況の調査、⑤行政との連絡など多岐にわたる。

このうち、最も早期に判断を要求されるものは、自施設で透析ができるかの判断で、できないと判断されたら、ではどこでできるのかの道を探す必要がある。この時の情報源として、我々は、平成10年9月に構築された「災害時三多摩透析ネットワーク」を参考に「東京都区部災害時透析医療ネットワーク」を構築した。

3) 東京都区部災害時透析医療ネットワーク設立の目的と組織

(1) 設立の目的

1995年1月17日（火）5時46分、兵庫県南部をマグニチュード7.3の大地震がおおい、死者6,433名、負傷者43,792人、全壊半壊の棟数249,180棟と莫大な被害をもたらした。神戸市内112病院の被害は、全半壊が12病院で、壁に亀裂が入る等の軽度の被害を含めると被害率は約90%となり、ほとんどの透析施設が透析施行不能となり、透析患者は大阪および岡山方面へ、透析施設をもとめて移動した。このときの経験から、災害地と災害地の周辺地域の透析施設との連携が、災害時の透析医療を確保する上で大切であることが認識された。災害から10年、常にその必要性が問われつづけていたが、2004年10月23日の新潟県中越大震災など一連の災害をきっかけに、連携組織として、「東京都区部災害時透析医療ネットワーク」が2005年4月26日、都庁第2本庁舎31階特別会議室において設立準備会議が開催された（図1）。



図1 東京都区部災害時透析医療ネットワーク設立準備会議（2005年4月26日、都庁第2本庁舎31階特別会議室にて）記念写真

本会は、その設立趣旨に「東京都区部における災害時の透析医療を円滑に行うため、都区部の透析医療施設間の災害時情報伝達の手段を提供するだけでなく、平時より災害時透析医療を行うための知識と技術を共有することを目的にしています。本会は、東京都三多摩災害時透析医療ネットワーク、全国の災害時透析医療ネットワーク、日本透析医会、日本透析医学会と協力して透析における災害時医療を策定し、都区部の災害に備えるだけでなく、さらに全国の災害時にはその対応に積極的に参加することも検討中です。いつ起こるかわからない災害に対して、できる限りの対策をたて、透析患者の医療に万全の対応をはかるため、都区部の全透析施設と、またこの意図にご賛同いただける団体（透析関連医薬・医療機器関連会社、その他団体）を結集して、災害時の透析医療を担保するために努力する所存です。皆様のご参加とご協力をお願いし、一方ではこの努力が実を結ぶような災害が起きないことを祈念したいと思います。」とある（表1、2）。

表1 東京都区部災害時透析医療ネットワーク入会のご案内

東京都区部災害時透析医療ネットワーク入会のご案内

関係各位

拝啓 時下、益々ご清栄のこととお慶びいたします。

この度、平成17年4月26日(火)都庁 第2本庁舎31階特別会議室において発起人会が行われ、東京都区部災害時透析医療ネットワークを設立いたしました。

本会は、東京都区部における災害時の透析医療を円滑に行うため、都区部の透析医療施設間の災害時情報伝達の手段を提供するだけでなく、平時より災害時透析医療を行うための知識と技術を共有することを目的にしています。本会は、東京都三多摩災害時透析医療ネットワーク、全国の災害時透析医療ネットワーク、透析医会、透析医学会と協力して透析における災害時医療を策定し、都区部の災害に備えるだけでなく、さらに全国の災害時にはその対応に積極的に参加することも検討中です。

いつくるかもしれない災害に対して、できる限りの対策をたて、透析患者の医療に万全の対応をはかるため、都区部の透析施設には正会員として、またこの意団にご賛同いただける団体(透析関連医薬・医療器機関連会社、その他の団体)には、賛助会員としてご入会をお願いいたします。会員には待合室に掲示できる会員証を発行し、またご同意が得られれば、本会ウェブサイトに掲載しますので、透析患者の安心につながるものと考えます。

末筆となりましたが、貴下のご健康と、ご発展をお祈りいたします。

敬具

平成17年7月吉日

東京都区部災害時透析医療ネットワーク

代表世話人 原 茂子

(国家公務員共済組合連合会 虎の門病院 健康管理センター 部長)

秋葉 隆

(東京女子医科大学腎臓病総合医療センター 血液浄化療法科 教授)

表2 東京都区部災害時透析ネットワーク概要

1. 名 称

東京都区部災害時透析医療ネットワーク

2. 内 容

本会は、東京都区部における災害時透析医療を円滑に行うため、災害時における透析医療に関する知識の普及、技術の向上、情報交換の方法の確立、都区部周辺地域との協力関係の樹立等をはかることで、災害時における透析医療の安定的な供給を行うのに資することを目的とする。

この目的を達するために次のような必要な事業を行なう。

- ①東京都区部災害時透析医療ネットワークの構築と運営
- ②東京都区部災害時透析医療ネットワークマーリングリストの設定と運営
- ③東京都区部災害時透析医療ネットワーク災害時模擬訓練の実施
- ④災害時透析医療の啓発に関する事業
- ⑤その他、目的を達成するための事業

3. 組織及び代表者

顧問 長澤俊彦 杏林大学学長

代表世話人 原 茂子 虎の門病院健康管理センター

秋葉 隆 東京女子医科大学腎臓病総合医療センター 血液浄化療法科

ブロック長

区中央部 飯野靖彦 日本医科大学附属病院

区南部 五味朋子 NTT 関東病院

区西南部 後藤俊郎 日本赤十字社医療センター

区西部 篠田俊雄 社会保険中央総合病院

区西北部 内田俊也 帝京大学医学部附属病院腎センター

区東北部 佐中 孜 東京女子医科大学附属第二病院内科

区東部 島田憲明 江東病院

事務局長 金子岩和 東京女子医科大学臨床工学部

(2) 東京都区部災害時透析医療ネットワークの組織

2005年6月2日都区中央部災害時透析医療ネットワーク説明会が開催され、以降平成17年6月8日区東北部ブロック、順次各ブロックの説明会が都二次診療圏と都災害拠点病院をブロックの拠点として開催された。2005年8月2日には東京都区部災害時透析医療ネットワーク ウエブ (<http://www.tokyo-hd.jp/>) が開設され、2006年8月14日には「東京都区部災害時透析医療ネットワークメンバーリングリスト」がたちあげられた。



図2 東京都区部災害時透析医療ネットワーク
ウェブ (<http://www.tokyo-hd.jp/>) のホームページ

東京都区部災害時透析医療ネットワークの組織（図3）では都区部を7ブロックにわけ、各ブロックにブロック長をおき、相互に協力して活動することとした。

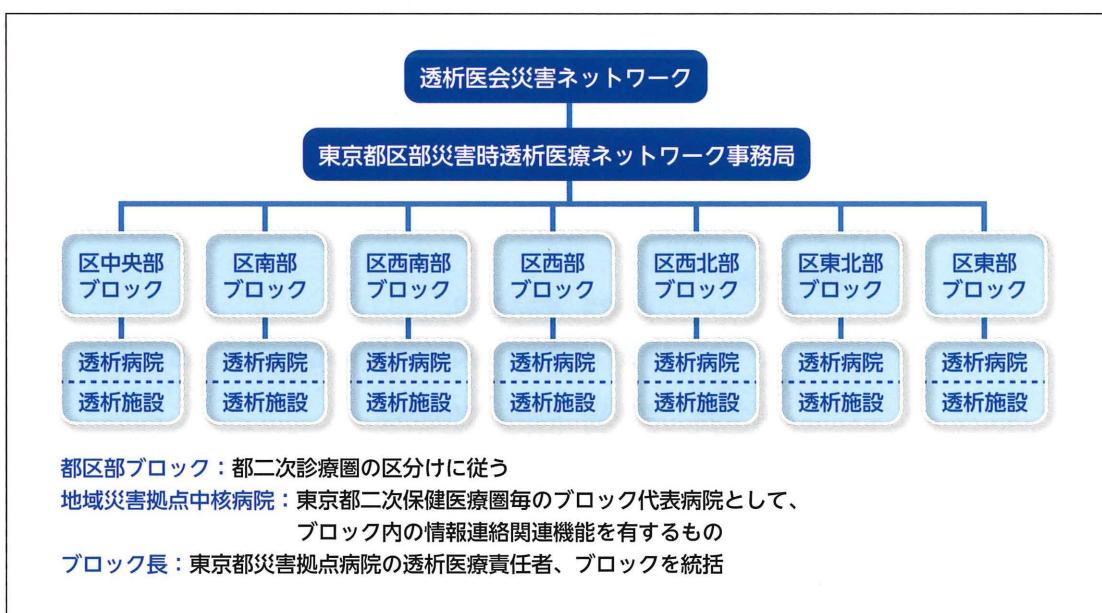


図3 東京都区部災害時透析医療ネットワークの組織図

(3) 都区部ネットワークと他地域ネットワークと国都府県との関連

都区部ネットワークと他地域ネットワークと国都府県との関連は概念的には図4に示すように、行政の「国—都—区役所—保健所」の各レベルでの対応を「国—透析医会災害対策ネットワーク」「都庁—区部災害時透析医療ネットワーク」「区役所—二次医療圏ブロック」「保健所—各診療所・透析施設」と階層化して示すことができる。実際の災害時医療に当たっては、どこかのレベルで機能が失われたりしてこの階層化がうまく働かないことも考慮して、他の階層が補完するなど、柔軟な対応を行うことも求められている。

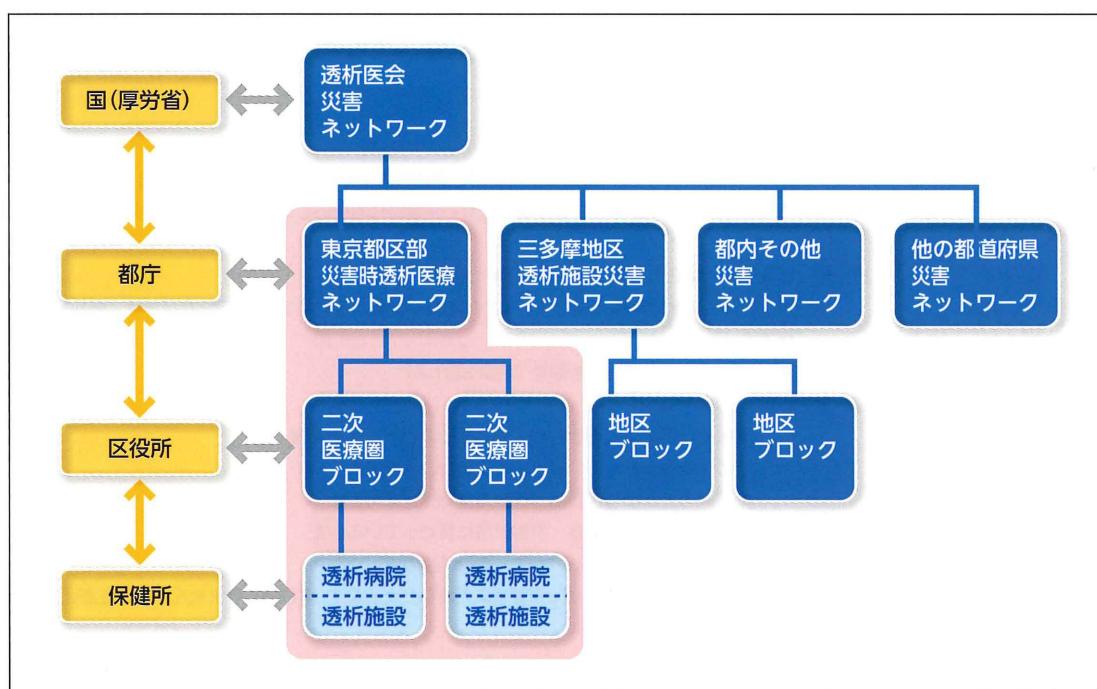


図4 都区部ネットワークと他地域ネットワークと国都府県との関連

(4) 都区部ネットワークの啓発活動

患者とスタッフの啓発活動としては、2005年8月2日（火）には東京女子医科大学弥生記念講堂にて東京都区部災害時透析医療ネットワーク発足記念講演会「東京を大災害が襲ったら—災害時にも安心して透析が受けられるように」を開催し、以後隔年、講演会を開催した（表3）。

表3 東京都区部災害時透析医療ネットワーク発足記念講演会の通知

各位

東京都区部災害時透析医療ネットワーク

代表世話人 原 茂子（虎の門病院）

代表世話人 秋葉 隆（東京女子医科大学）

拝啓

初夏の候、時下ますますご清祥の段、お喜び申し上げます。平素は格別のご厚誼にあずかり、厚く御礼申し上げます。さて、平成17年4月26日（火）東京都庁におきまして、東京都区部災害時透析医療ネットワークが設立されました。それを受け都区部七医療圏においてブロック世話人会が立ち上げられ、災害時の透析医療を護る体制が整いつつあります。そこで、下記のような東京都区部災害時透析医療ネットワーク発足記念講演会を開催する運びとなりました。ご多忙なことは存じますが、是非ともご参加をお願いいたします。

敬具

記

東京都区部災害時透析医療ネットワーク発足記念講演会

「東京を大災害が襲ったらー災害時にも安心して透析が受けられるように」

日 時：8月2日 火曜日 17時30分～20時30分

第1部は災害関連映画上映です。すでにご覧いただいている方、ご多忙のかたは2部からご参加いただいても結構です。

会 場：東京女子医科大学 弥生記念講堂（定員850名）

ご参加をお願いしたい方々：

- ・都区部の透析施設の医療職・事務職その他すべての職員
- ・そこで治療を受けていらっしゃる患者とその家族
- ・都区内の透析関連医薬品・医療用具関連企業のかた
- ・都区の行政、特に医療・災害対策に携わっているかた
- ・マスコミ・水道・電気・ガス・通信関連の方

入場無料：登録や申し込みは不要です。先着順に入場いただきます。申し訳ありませんが定員を超えての入場はできません、あらかじめご了解ください。

開会・進行：秋葉 隆 代表世話人

第1部 災害関連映画上映（午後5時30分～6時30分）

1. 透析患者さんの危機管理（21分）
災害時の透析患者さんの心得を解説したものです。
2. 日本透析医会 新潟県中越地震と透析（速報版）（35分）
昨年の中越地震における新潟の透析患者と透析スタッフの対応を速報したものです。

第2部 ネットワーク発足のご報告と参加のおすすめ（午後6時30分～8時30分）

1. 開会の辞 長澤俊彦 東京都区部災害時透析医療ネットワーク顧問、

東京都特殊疾病対策協議会腎不全対策分科会会長・杏林大学学長

2. 祝辞 湯藤 進殿 東京都医師会理事

3. 祝辞 田原なるみ殿 東京都福祉保険局保健政策部疾病対策課長

4. 祝辞 杉崎弘章殿 日本透析医会 専務理事・（社）心施会府中腎クリニック理事長

5. 東京都区部災害時透析医療ネットワーク発足のご報告 原 茂子代表世話人・虎の門病院

6. 各ブロック長・副長・事務局長ご紹介

7. 記念講演（1）「直下型地震災害時の医療対策」

座長 杉崎徹三 昭和大学名誉教授

演者 岡部綱好 都福祉保険局医療政策部副参事（災害医療担当）

8. 記念講演（2）「新潟県中越地震の経験と教訓」

座長 小出輝 順天堂大学名誉教授

演者 鈴木正司 新潟市社会事業協会信楽園病院院長

9. 閉会の辞 代表世話人 原 茂子

(以上)

2007年8月31日には日本透析医会の災害時情報伝達訓練に参加し、以後毎年参加している。また、2007年11月3日、日本透析医会が行った「災害時医療支援船運用」訓練に参加した。2010年8月には透析患者さんとご家族の災害対策への関心を高め、災害時の不安を少しでも軽減する目的で、患者向け都市型の災害対策小冊子として「透析患者災害対策マニュアル」(A4サイズ32頁)を作成し、希望施設に配布し(図5、6)、出版記念講演会を行った(表4)。

現在、都区部ネットワークの組織は217会員施設・15賛助会員と、日本透析医学会の都区部施設会員283施設中76.6%の組織率である(2012年7月27日現在)。



図5 患者向け都市型の災害対策小冊子として「透析患者災害対策マニュアル」(A4サイズ32頁)の表紙

災害時要援護者透析カード		患者情報																		
表	<p>ふりがな ピラセキ しろう 氏名 透析 四郎 住所 〒162-8666 新宿区河田町8-1 電話 自宅: 03-XXXX-XXXX 携帯: 生年月日 明治昭和 17年5月7日 血液型 A B, O, AB型 RH (+ +) 緊急連絡先 電話: 03-XXXX-XXXX 氏名: 透析 三郎 電話: 氏名:</p>	<p>アレルギー なし 禁忌薬剤 合併症 糖尿病性網膜症 感染症 HBV抗原(+ -)・HCV抗体(+ -) HBs抗体(+ -)・W抗体(+ -) 定期処方 ※お薬手帳を参照ください。</p>																		
裏	<p>透析条件</p> <table border="1"> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/> 血液透析 <input type="checkbox"/> 腹膜透析 <input type="checkbox"/> 併用療法</td> <td><p>患者情報</p></td> </tr> <tr> <td>通院施設名 東京透析クリニック 電話: 03-XXXX-XXXX</td> <td></td> </tr> <tr> <td>治療サイクル 1回 4 時間、 3 回/日(週)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ドライウェイト 55.3 Kg</td> <td></td> </tr> <tr> <td>治療方法 血液透析(HD, HDF) CAPD・併用</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ドライバー(透析液) タイアライザー(XXL)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>透析液/血液流量 500 / 220 ml/min</td> <td></td> </tr> <tr> <td>抗凝固薬 ヘパリントン(ヘパリントン)・低分子ヘパリントン(ヘパリントン)・その他の()</td> <td></td> </tr> <tr> <td>初回: 1000 (単位: mg) 持続: 500 (単位: mg) /時間</td> <td></td> </tr> </table>	<input checked="" type="checkbox"/> 血液透析 <input type="checkbox"/> 腹膜透析 <input type="checkbox"/> 併用療法	<p>患者情報</p>	通院施設名 東京透析クリニック 電話: 03-XXXX-XXXX		治療サイクル 1回 4 時間、 3 回/日(週)		ドライウェイト 55.3 Kg		治療方法 血液透析(HD, HDF) CAPD・併用		ドライバー(透析液) タイアライザー(XXL)		透析液/血液流量 500 / 220 ml/min		抗凝固薬 ヘパリントン(ヘパリントン)・低分子ヘパリントン(ヘパリントン)・その他の()		初回: 1000 (単位: mg) 持続: 500 (単位: mg) /時間		<p>お願い</p> <p>私は人工透析を行っている患者で、左前腕内シャント造設の手術をしています。万が一の場合には、表面の連絡病院までご連絡をいただきますようお願いします。</p> <p>シャント・グラフト・カテーテル出口部(図)</p> <p>右腕・左腕(シャント・表在化・グラフト)・CAPD</p>
<input checked="" type="checkbox"/> 血液透析 <input type="checkbox"/> 腹膜透析 <input type="checkbox"/> 併用療法	<p>患者情報</p>																			
通院施設名 東京透析クリニック 電話: 03-XXXX-XXXX																				
治療サイクル 1回 4 時間、 3 回/日(週)																				
ドライウェイト 55.3 Kg																				
治療方法 血液透析(HD, HDF) CAPD・併用																				
ドライバー(透析液) タイアライザー(XXL)																				
透析液/血液流量 500 / 220 ml/min																				
抗凝固薬 ヘパリントン(ヘパリントン)・低分子ヘパリントン(ヘパリントン)・その他の()																				
初回: 1000 (単位: mg) 持続: 500 (単位: mg) /時間																				

図6 「透析患者災害対策マニュアル」に綴じ込まれた「災害時要援護者透析カード」(折りたたんで名刺大になります)

表4 東京都区部災害時透析医療ネットワーク講演会 ～災害対策マニュアル出版記念講演会

東京都区部災害時透析医療ネットワーク講演会～災害対策マニュアル出版記念講演会のお知らせ

東京都区部災害ネットワーク <http://www.tokyo-hd.jp/index.php> はこの度、「透析患者災害対策マニュアル」を作成し会員施設の患者に配布することとしました。この出版を記念して記念講演会を行います。

東京都区部災害時透析医療ネットワーク代表世話人 秋葉 隆、飯野靖彦

日 時：11月2日（火）午後6時30分～8時 会 場：東京女子医科大学弥生記念講堂

対 象：透析患者とその家族、透析に従事する医師、看護師、臨床工学技士、栄養士、ケースワーカー、放射線技士、臨床検査技師、事務職など

東京都区部災害時透析医療ネットワーク講演会～災害対策マニュアル出版記念会次第

ご挨拶 東京都区部災害時透析医療ネットワーク顧問 長澤俊彦

東京都疾病対策課

東京腎臓病協議会

講演1. 災害対策マニュアルの紹介とその活用

東京女子医科大学東医療センター 樋口千恵子先生

講演2. 新潟地区における地震と透析治療～その教訓

自衛隊中央病院リハビリテーション科部長兼内閣府技官 久保田孝雄先生

講演3. 阪神淡路大震災の経験から

坂井瑞実クリニック理事長 坂井瑞実先生

閉会の言葉 日本医科大学 飯野靖彦

ネットワーク事務局：東京女子医科大学病院臨床工学部 金子岩和

電話：03-3353-8112 内線 29055

〔文責：東京都区部災害時透析医療ネットワーク代表世話人
秋葉 隆（東京女子医科大学）
飯野靖彦（日本医科大学）〕

2. 都区部ネットワークによる いわき市透析患者集団避難の受け入れの概略

1) 初めに

都区部ネットワークによるいわき市透析患者集団避難の受け入れについて、それぞれの立場から報告を行っていただくが、その全体像を把握していただくため

に、その概略を述べる。

2) 東北大震災の発生と福島原発メルトダウン

(1) 都内の状況

2011年3月11日M9.0の大地震が東北地方太平洋沖で発生した。当日は九段会館で天井崩落が起き死者がで、都内で大量の帰宅難民が発生した。当日翌日とも都内透析施設も停電・断水で透析ができず、患者の通院やスタッフの通勤に難渋した。3月13日には、ネットワークは「東京都区部災害時透析医療ネットワークマーリングリスト」で「被災地ではたくさんの透析患者が透析のできる場所を失っていると推測されます。」と避難透析患者の透析場所斡旋に乗り出した。「都区内の透析施設は <http://www.saigai-touseki.net/> で救援情報を入力してください。都内に避難された透析患者さんは、透析の確保に問題があれば、ご連絡ください。」と情報の確保に集中した。

(2) いわき市の状況

福島では3月11日夜、原子力緊急事態宣言発令が出され、次々に避難範囲が拡大された。福島第一原発の周囲20km圏に避難指示、30km圏に自主避難要請が出され、いわき市の一部がこの範囲に入ったためいわき市民には全市に避難要請が出されたかのように受け取られ、いわき市はゴーストタウンと化した(図7)。



図7 福島県いわき市の透析施設の位置と原発30km圏

この結果、

- いわき市内のほとんどの透析施設では断水となり透析継続と医療継続が困難となり、一部の施設に受け入れ能力を超える患者が殺到した。
- 近隣に「避難指示／屋内待避」が出され透析のための外出通院が困難となつた。
- ガソリン供給が絶たれ通院手段が失われた。
- 物資の市内流入が止まり、医療材料が不足した。
- 医療者の避難が始まり、近日中に医療継続が困難になると予想された。

これらの経過から、いわき市内の透析施設は患者のいわき市内からの避難を模索し始めた。各施設に希望を募ったところ、いわき市内の透析施設では9施設の外来透析患者約430名が市外への避難の意向を示し、いわき市へ避難「透析患者集団避難」を斡旋するように依頼したが、好意的な対応は得られなかった。

3月16日夜の時点での東京都区部災害時透析医療ネットワークの把握した都区内の施設外来透析受け入れ可能数の集計は1,037名に上っていた。

(3) 避難受け入れの依頼と、都への働きかけから避難所入所と透析斡旋

避難受け入れの依頼がネットワークに入った経過と、ネットワークから都への働きかけの経過を示す(表5)。このように、移動決定が移動の前日(16日)で、移動人数は到着まで確定できない状態だった。

表5 避難透析患者の依頼と受け入れ決定

	避難情報の把握	都への働きかけと受け入れ
3月15日(火)	午後6時頃 **透析病院**院長にネットワークから電話、「新潟へ800名避難を模索中」の情報を入手した。 午後6時5分ごろ 同院**先生から詳報あり。	午後7時頃 東京都に「数十人～百人単位での避難の可能性?あり。宿舎と通院手段確保を打診した。
3月16日(水)	午前11時頃**大**教授よりバスのめどがたったとの情報を入手した。 午後4時 新潟が「無理?」との情報あり。 午後8時 東京に400名を依頼したいとの連絡あり。 午後10時秋葉の携帯に東京600名に増加依頼	都に移動日時の決定と避難患者数の増員を連絡、手配の約束を得た。 再度増員を連絡
3月17日(木)	午前10時20分バス出発 避難宿舎未定のため都庁を目的地に設定 午後2時頃バス到着し始めた。	午後4時頃避難宿舎国立オリンピック記念青少年総合センター・日本青年館に決定

400 余名の避難宿舎が決定し、透析患者が宿舎に入所した頃、ネットワークは翌日の透析施設の斡旋作業を行った。この経過は他項を参照されたい。避難透析先斡旋が無事行えたのは、都区部の災害対策情報を集約するシステムがあらかじめ構築されていたことによるものと考えている。

(4) 避難透析斡旋の問題点と対策

今回の避難患者斡旋の問題点を列挙する。

● 避難患者リストについて

- 避難患者数さえ不明な状況で避難患者の避難所の斡旋と受け入れを決定し実行した東京都に感謝する。
- 避難呼び掛けから避難出発までの期間が短く、避難者リストが作成できなかつた。
 - ・このため、避難透析患者の人数・透析条件・感染情報などほとんど得られないまま各透析施設に依頼せざるを得なかった。不完全な情報で応じてくれた各施設に感謝する。
 - ・その結果、多数の未上京患者を透析施設に斡旋し、現場を混乱させた。
- 避難先の決定が、都庁到着後 2 時間半と遅れ、受け入れ透析施設斡旋の地域最適化が謀れず、通院距離が長いなど問題点を生じた。
- 「外来透析患者」も避難所の環境では入院治療を要する場合を想定しておくことができず、避難所入所後の入院斡旋など手間取り、最短の対応ができなかつた。

今回の経験を元に、透析患者災害時の大規模な避難に必要な要件をまとめた。

- 踏るべき手順をマニュアル化
 - ▶移送の手段 / 宿泊先の確保 / 受け入れ透析施設確保の 3 ステップ
- 移送患者のリスト / 透析条件 / 感染情報の完備
 - ▶避難患者リストのフォーマット（氏名、年齢、性別、原疾患、透析条件、最終透析、ADL など）作成
- 都災害対策課と疾病対策課と区部ネットワークの連携強化
 - ▶区部ネットワークの役割を明確化し、行政として情報管理、対応等について取り組んでいただきたいことを提言する。
- 受け入れ数（避難入院 / 外来透析患者可能数）の把握
 - ▶医会 / 区部ネットワーク / 三多摩 / 各区部での受け入れ患者数 / 避難患者数の把握を自動化できないか検討する。
- 都直下型地震時の都区部透析患者の受け入れ先を確保する。
 - ▶大規模受け入れの可能性のある地域との連携を強化する。

(5) 最後に

今回、事務局の不備などから苦労をおかけした透析患者さんにお詫びします。緊急避難にあたり患者に付き添って献身的に介護に当たられたいわき市の透析スタッフの皆様、都区部ネットワークの活動に協力いただいたネットワーク会員、そしてネットワーク事務局員に感謝します。皆様の善意に支えられて、今回の活動ができたものと評価します。

都直下型地震の発生が現実の危機として迫りつつある。この時発生するであろう大量の透析の場を失った都区部透析患者に対する対策をしっかりと構築しておくことが求められている。残された時間がどれだけあるのかは知るべくもないが、喫緊の課題であることに異論をもつ透析従事者はいない。

[文責：秋葉 隆（東京女子医科大学）]

3. 福島県いわき市 ときわ会グループから

■ 2011年3月11日（金）14時46分地震発生

気象庁の発表によると、最大震度6弱を観測したいわき市では、震度4以上が約190秒続いた中で、震度5強に相当する揺れの部分が40秒、震度5弱以上が70秒あった。これは各観測地点で最長の非常に長い揺れであった。

ときわ会グループは、いわき市を中心に透析と泌尿器疾患を中心に診療するグループで、震災時、透析を行っている施設として、いわき市内には、常磐病院、いわき泌尿器科病院、竹林クリニック、泉中央クリニックがあり、その他、福島県富岡町に富岡クリニック、茨城県北茨城に北茨城中央クリニックが存在した。

ときわ会グループではいずれの施設においても、人的被害はなかったものの、透析機器の故障と震災直後からの断水のため透析の緊急回収を行った。また富岡クリニックを除いて、停電はなかった。回収後の患者は、余震がひどいためいたん駐車場などの安全な場所で待機した後、余震が落ち着いた16時ごろより帰宅させ、帰宅困難者は入院させた場合もあった。

■ 3月12日（土）

透析機器の故障は直ちに修理させ、断水に関しては市水道局より給水車で補給し、透析再開。QD:300mL、HD:1.5h、ECUM:2h 3シフトで行った。

15時36分、福島第一原発1号機が水素爆発を起こす。避難や避難準備のため市民がガソリンスタンドに行列を作る。市内スーパーとコンビニでは商品がなくなり、休業する店も。

原発事故のため緊急避難を強いられた富岡クリニックの患者およびスタッフの一部が、いわき市に避難し常磐病院といわき泌尿器科で受け入れる。そのほかの患者は福島県中通り地方や会津地方に避難したが、当時は正確な把握はできなかつた。これらの患者は避難先で透析を受けることになるが、透析条件が不明なためその不手際を透析施設よりときわ会グループが非難を受けることもあった。

■ 3月13日（日）

日曜日であるが、前日と同様のスケジュールで透析を行う。水の確保に苦労する。送迎用のガソリンの確保が困難になり、通院困難者の透析の見通しが厳しくなる。

■ 3月14日（月）

いわき泌尿器科で水道復旧するが不安定な供給。いわき市内の他の透析クリニックから当院で透析を希望する患者を受け入れる。ガソリンや食料の確保がますます困難になる。

11時、福島第一原発3号機が水素爆発。これをきっかけに多くの市民はパニックとなり、市外へと避難する。主要幹線道路は大渋滞となった。いわき市民34万人のうち約7万人が自主避難したとされ、市内のほとんどの商店は営業しておらず、ゴーストタウンと化した。

いわき泌尿器科では、震災による建物の被害は一部の損壊のみで、断水や停電もなく、透析医療は継続可能であった。しかしながら、医療物資（ダイアライザ、透析液、薬品など）や食料、ガソリン、医療スタッフ（自主避難したため）の不足により、透析継続が非常に厳しい状況になった。特に、いわき市内の他の透析クリニックでは断水が続いている、一部では透析医が避難し透析そのものをやめたクリニックも出現した。

このような状況で、いわき市内で透析を継続することは困難という判断をし、いわき市内の透析施設10施設で協議し、他県での透析の方法を検討し始めた。東京、新潟、千葉（亀田グループ）の3都県の透析関連の先生方と協議し、透析患者の受け入れをお願いした。また並行して、移送の手段、宿泊の手配も行政（市、県、国）や自衛隊、議員や民間会社等、手当たりしだいといつていいほどに各方面に陳情した。

■ 3月15日（火）

いわき市内の透析施設に問い合わせ、移動する透析患者は総数741名（内ときわ会560名）と判明。うち400名が東京、300名が新潟、41名を亀田に移送する計画で準備。食料やガソリンの不足が限界に近く、3月17日に移送の予定とし、これが物資不足のため透析患者の移送のタイムリミットと考えた。

■ 3月16日(水)

不確実な情報が錯綜する中、少ないスタッフ数で透析を行い続けた。各方面にお願いし、輸送手段、宿泊場所を確保し3月17日に移送の方向で準備し、市内各クリニックに連絡した。しかし東京、新潟、亀田の透析患者移送の調整が、いろいろな方々に調整をお願いしたために情報が交錯し、特に新潟では正式な（公式な）受け入れ要請が来ていないことにより、当初想定していた人数の受け入れができないことが判明し、新潟は150名の受け入れとなり、残りは東京に受け入れてもらうことで了解を得た。

朝から深夜まで、移送患者の自宅へ集合時間の連絡に追われた。特にときわ会では、患者の緊急時連絡先を明確にしていなかったため、学校や体育館、親せき宅など避難している患者には連絡が取れず、正確な移送名簿が出来なかつた。

緊急

患者様・御家族様へ

今回の地震災害により3月16日(水)をもってときわ会グループでの透析治療が困難となり、いわき市全域で同様に透析治療が困難となります。つきましては、全透析患者様を対象に他県での治療を継続する運びとなりました。透析治療の受け入れ先は、確保しております。ご協力よろしくお願いします。

なお詳細は下記をご参照ください。

出発日：3月17日(木)

集合時間：午前8:30～午前9:00まで（御本人または御家族の方で集合してください。）集まり次第順次出発します。

集合場所：内郷保健センター

受け入れ先：新潟大学病院およびその周辺施設
ただし竹林貞吉記念クリニックの患者様は、東京女子医大病院および周辺施設となる予定です。また、常磐病院の患者様は、亀田総合病院となる予定です。

受け入れ先までの移動手段：チャーターバス

バス乗車対象者：患者様のみ

用意していただくもの：生活費、保険証、身障者手帳、薬情報、薬手帳、当日の昼食、生活必需品、各患者パック1つ、パックには名札を付けて下さい。

財団法人ときわ会

■ 3月17日(木)

出発当日

いわき市保健センターの駐車場に、大型バス29台が到着。9時に患者集合。各バスの乗車割り振りを、事前に作成していたが、放射能の危険の残る屋外で、迅速な乗車を心がけたため、確実に乗車したか出欠に関して、不明なまま10時各方面に向かって出発開始。



車内移動中に、透析患者の最終名簿の作成を試みるが、携帯電話の電波事情が震災の影響で極端に悪く、また携帯メールで連絡を試みるが、返信が来ない場合も多々あり、患者名簿が不明なまま 14 時から 15 時の間に東京都庁に到着する。

・3月17日移動した患者とスタッフ数

東京 バス台数 17台 (透析医会負担) +3台 (厚生労働省負担)	患者:385名 (+staff:49名)
千葉 バス台数 2台 (厚生労働省負担)	患者: 45名 (+staff: 4名)
新潟 バス台数 7台 (福島県負担)	患者:154名 (+staff:22名)

・いわき市内の透析施設と透析患者数、移送した患者数

透析施設名	全透析患者数 (移送患者数%)	事前連絡 患者数	避 難 実患者数	移送先内訳	入 院 患者数
ときわ会	629(68.0%)	497	428	東京 229 新潟 154 亀田 45	68
ゆうクリニック	39(46.1%)	39	18	東京 18	0
ニュータウン(NT) クリニック	138(52.8%)	138	73	東京 73	0
松尾病院	12(91.6%)	12	11	東京 11	2
クリニックかしま	130(0%)	9	0	0	0
かもめクリニック	144(37.5%)	不明	54	東京 54	0

石原都知事のあいさつの後、東京都庁に到着後透析患者名簿作りに着手。ときわ会以外は数名のスタッフしかいないため作成に時間がかかる。その間、患者を待たせてしまい、これまで不十分な透析であったため体調を崩しそのまま東京女子

医科大学で透析を行った患者が9名いた。

患者名簿作成後、入院患者は救急車で各病院へ搬送、残りの患者は国立オリンピック記念青少年総合センター（オリンピックセンター）と日本青年館へバスで移動する。全員移動完了したのが夜9時であった。その後、東京女子医科大学からの透析施設の割り振りリストをいただき、翌日の透析施設移送のスタッフの配置を決めた。

ときわ会グループはスタッフが約40名いたため、各患者の送迎に対応できたが、他の施設はスタッフが1～2名しかおらず、送迎の対応に苦慮した。外来透析患者に分類された透析患者は入院の必要のない患者のみであったが、自立度はさまざままで、介助なしでは移動ができない患者も多く含まれた。そのため公共交通機関による透析施設の移動も考えたが、患者のADLやスタッフが東京の地理を知らないことを考えると現実的ではないと判断し、すべての移動はタクシーを利用せざるを得なかった。

■ 3月18日（金）

午前8時台の透析開始の施設があり、早朝より移動の準備を行う。オリンピックセンターは、広大な敷地でタクシーを簡単に捕まえることができず、電話で配車の予約を行うが、必ずしも時間通りタクシーを用意できず苦労する。

引き続き、名簿作りに明け暮れるが、スタッフも連日の徹夜に近い業務とパソコンがなくすべて手作業で行ったため、正確な名簿作りができず、いない患者が透析リストにあったり、いる患者が漏れていたりと混乱を極めた。

夜になり、東京都の担当者から、オリンピックセンターより、自立した患者のみを受け入れる旨を聞いていたのに、車椅子の患者が含まれていたり、日中透析不良で救急搬送された患者がいたため、クレームが入ったとのことで、夜になり、東京都の担当者から、比較的ADLの低い患者は入院させるようにと用命される。ADLの低い患者約50名を選別し、翌日入院させた。

■ 3月19日（土）

透析リストにない患者があつたり、透析患者の家族がリストにあつたりと、リスト修正に追われた。

■ 3月20日（日）

透析休日

■ 3月21日（月）

ときわ会以外の施設で、かもめクリニック、ゆうクリニック、ニュータウンクリニックでは、自前で透析施設を依頼し、各宿泊施設をでる患者がみられた。

4. 事務局から

1) 発災連絡と会員施設の状況収集

(1) 発災直後

2011年3月11日（金）14時46分頃発生した地震について、東京都区部災害透析医療ネットワークメーリングリストへの会員施設からの最初の投稿は15時10分の、「破損なし、透析中断」の報告で、これは地震発生後約25分後であった。事務局からは、15時13分に「宮城県北部で震度7の地震がありました。何か被害がありましたら、ネットワークへご連絡ください。」とし、各施設からの報告を受け入れる体制とした。その後各施設から被災あり・なし等の報告が相次いだ。

3月13日11時27分に「ネットワーク会員施設へご依頼」として秋葉代表世話人名で、避難透析患者収容へ向け、入院透析可能数、外来透析可能数の報告を促した。これに対し、各施設より、対応があり、入院、外来に分け透析患者受け入れ可能数の集計を開始した。

東京電力の発電量不足による輪番停電（のち計画停電）施行を受け、発表された計画等をメーリングリストで会員と共有することを図った。

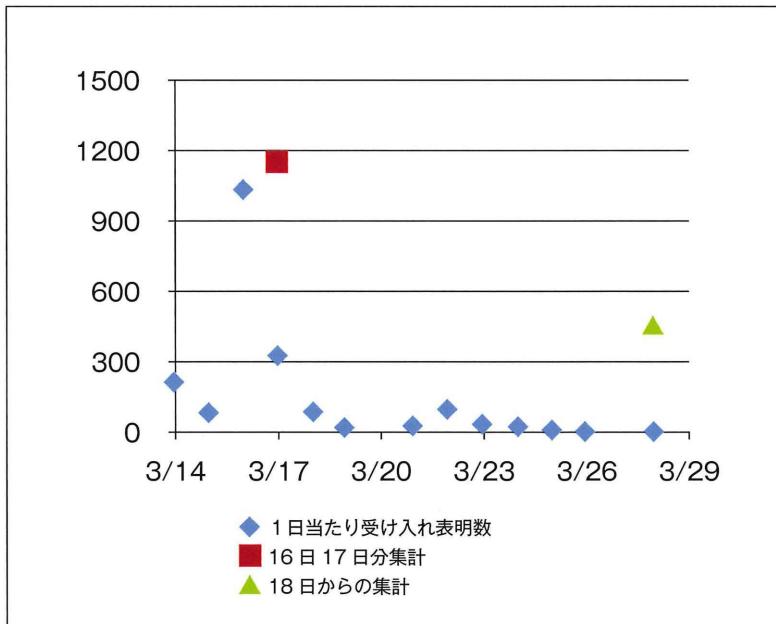


図8 受け入れ表明数の推移

(2) 避難情報とその対応

3月15日17時47分に秋葉ネットワーク代表世話人より、「緊急の要請」としていわき市の透析患者1,200名が県外へ避難することとなったとの情報がよせられた。

これを受け、翌3月16日7時21分に事務局より、「区内最大受け入れ可能数

が避難計画に必要」とし、最大限の受け入れ可能数をメーリングリストを通じ報告するよう要請した。その後10時30分には受け入れ表明数が300人分を超える、11時30分には当面の目標である400人分を超えた。18時には930人分となり、当面の目標である400名分を確保できる見通しが立つと考えられた。このような短時間にこれだけの受け入れ準備が可能となったのは、東京都区部災害時透析医療ネットワーク会員施設数203、同時透析数6,030という規模に加え、会員のモラルの高さの表れと考えられる。その後も受け入れ数は増加し、これらを集計した結果、東京都区部での受け入れキャパシティーは1,150ほどと推察された。

2) 避難患者受け入れ可能な施設、患者数の把握、受け入れ施設の把握

各施設からネットワーク事務局に寄せられた受け入れ数報告を表6のようにリスト化したものを元に、透析施設の手配を行った。

表6 受け入れ報告数リスト例

合計数→	269	345	14	417
	2011/03/16		1,045	
施設名	月水金	火木土	本日	全部で
施設 1	4	2		
施設 2	5	5		
施設 3	8	10		
施設 4				5
施設 5				3
施設 6	3	12		
施設 7				9
施設 8				6
施設 9	5	5		
施設 10				5

各施設から送られたデータは、記載内容、フォーマットとともにさまざまであり、例外データを少なくするために表6のごとく簡略化してリスト作成を行った。

3) 透析施設への患者配分

(1) 1次配分

患者の各施設への配分作業が、患者リストとしていわきより送られた356名分の事前患者リストを用いて避難患者が東京へ到着後に行われた。最終透析日が不明な患者を先に振り分け、次に最終透析日が早い患者から順番に振り分け、施設ごとの配分が終了したのが18時頃であった。その後各施設へFAXで配分患者リストを送付するとともに、受け入れ施設に直接、電話で確定した人数、治療日、治療時間帯を伝え、受け入れ可能の確認をする業務を18時～21時に行った。この確認がとれなかった施設の患者はさらに振り分け作業を行った。



(2) 2次配分

到着した患者を元に到着患者リストを作成したところ、事前患者リストとの間に相違があり、調査の結果、新たに事務局が受け入れ施設に紹介すべき通院透析患者が320名、事前リストに名前があったが上京していない患者が85名いることがわかり、再配分を行った。

(3) 避難宿泊施設への受け入れ施設決定と患者配分の連絡

避難宿泊施設へ、受け入れ透析施設ごとの患者リスト一覧と、インターネット上に掲載されている受け入れ透析施設の地図、住所、電話番号を含むページをセットにして、2箇所の避難宿泊施設に送った。

4) 避難患者の動向

事前患者リストでは、移動患者数 405 名（入院確定者 49 名、施設入所外来透析者 356 名）であったが、事前のリストに名前はあるが上京しなかった患者が 85 名おり、その数に実際に上京した患者数を合わせると、総患者数は 458 名となった。さらに 12 名の患者が漏れていることがわかり、最終の総登録患者数は 470 名となつた。

図9は、事務局で把握していた患者動向である。患者動向の情報は、現地避難所からの電話または電子媒体による報告に基づくものだが、報告の内容が途中から変わっていることもあり、集計する上で、変更が確定した時点（確定した日）を採用し、移動者で入院と明記されていない症例は「退所」として処理した。

「継続避難」とは、いわきよりバス移動し、指定避難施設（オリンピックセンター、日本青年館）に入所し、入所を継続した患者数を表す。「追加登録」とは、移動初日（3月 17 日（木）、1 日目）の最終リストに登録がなく、その後に、指定避難施設に入所していたことが確認された患者数を表す。「退所」とは、いわきからの移動時に上京しなかった患者と、東京到着後に家族や本人の判断で指定避難施設を出た患者、いわきより移動してきた施設責任者の判断で他の関東圏の施設と個人契約し移動した患者数を表す。「入院」とは、いわきからの移動後に、都内の医療施設に入院した患者数を表し、入院したことが確認できた日を移動日とした。いわきより移動してきた施設責任者の判断で他の都内施設へ移動した症例は入所先からの連絡もなく、入院の有無の判断もできなかつたため、「退所」に含めてある。「死亡+不明」は、いわきを出る直前に死亡した 2 名と、指定避難施設に行き先を告げずに行方不明となつた患者 1 名の総数を表している。

入院患者数は、移動前から入院予定者の 47 名に加え、車椅子での移動者など、指定避難施設からの都内指定透析施設への通院が容易でない患者が、その後入院となつており、3 日目には 105 名と倍に増加し、移動後 7 日目には 128 名となつてゐる。

上京しなかった患者は 85 名であったが、4 日目には 132 名と急に増加している。数が大きく変化した理由として、いわきより移動してきた施設責任者の判断で、他の関東圏の施設に患者が移動したためである。

継続避難の入所者数は、7 日目には 190 名となり、患者数は 1 日目の 320 名の約 6 割に減少し、1 週間に 40% の方が退所していたという結果となつてゐる。

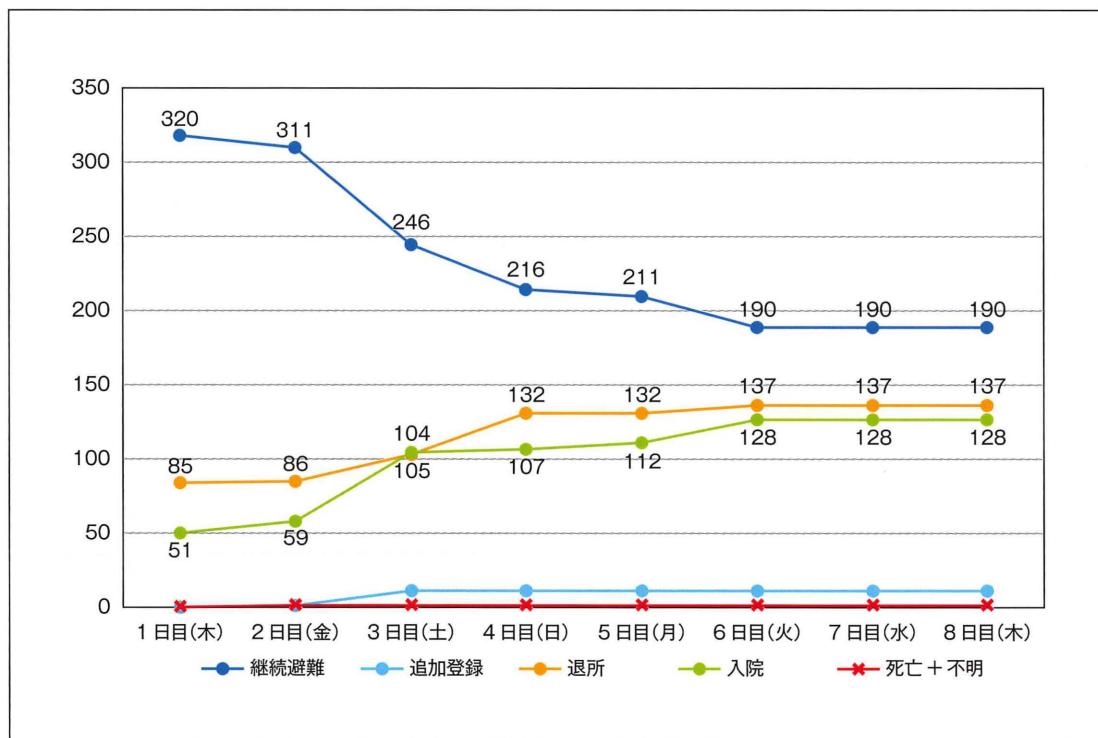


図9 いわき市透析避難者の東京到着後の動向

[文責: 石森 勇、木全直樹 (東京女子医科大学)]

5) 東日本大震災発生後のメール記録

[資料]

日時	発信者	受信者	内容
2011/03/11 (金) 15:34 都内の被害調査	Takashi Akiba. M.D.,Ph.D. [*****@***. ocn.ne.jp]	ml-tokyo-hd@ tokyo-hd.jp	<p>今回の宮城県の沖を震源とする地震の被害がありましたら、ネットワーク及び医会災害登録へご連絡お願いします。</p> <p>お台場では火事がおきているようです。通院時も含め2次被害にもお気をつけ下さい。ネットワークでは東北地方の被害状況を調査し、必要によっては協力要請をおこなう予定です。しばらくはこのメーリングリストにご注意ください。</p>
2011/03/11 (金) 15:34	Takashi Akiba. M.D.,Ph.D. [*****@***. ocn.ne.jp]	ml-tokyo-hd@ tokyo-hd.jp	<p>1) 一夜明けて、被害状況が、災害中心部からも明らかになり、多数の被災透析患者の存在が明らかになっています。</p> <p>これに対する都区内他施設の対応状況をお互い知り、各施設の対応を決めていくために、本メーリングリストを大いにご活用ください。</p> <p>2) 一方、全国の対応を集計するためには日本透析医会の災害時情報ネットワークのシステム利用をお願いします。</p> <p>毎年の模擬訓練でご活用いただいていると思いますが、繰り返します。</p> <p>登録のホームページは下記です。</p> <p>http://www.saigai-touseki.net/sendsdata/sendsdata.php</p> <p>登録いただいたデータは自動集計され、全国の登録集計結果は下記の頁でごらんになります。</p> <p>http://www.saigai-touseki.net/sendsdata/total.php</p> <p>両者を積極的に活用して、災害対応をお願いします。</p> <p>また、余震が続いています。自施設の患者も動搖されていると思います。</p> <p>しっかりとご指導お願いします。</p>

日時	発信者	受信者	内容
2011/03/13 (日) 11:07 被災地の透析患者 引き受け募集	Takashi Akiba. M.D.,Ph.D. [*****@***. ocn.ne.jp]	ml-tokyo-hd@ tokyo-hd.jp	<p>二晩経過しました。日曜ですが、メール読んでいただけること期待します。</p> <p>日本透析医学会の **** の ***** 先生から ***** 宛ですが理事会全員に配布されたメールを転送します。</p> <p>阪神の震災では、大阪・岡山に患者が移動しました。新潟の震災ではほとんど県内他地域で収容可能でした。今回は成田空港と羽田空港が機能するようになれば、岩手・宮城・福島の透析患者を収容する能力のある地域は東京都区部です。</p> <p>都区内施設は、昨日で当日来院できなかった患者、時間短縮した患者などへの対応がすんでいると思います。これからは、災害地で透析を受けられない患者への対応が我々災害時透析ネットワークの役割と考えます。</p> <p>1) 病院併設透析施設へのお願い</p> <ul style="list-style-type: none"> a) 災害地から避難してきた透析患者の「社会的入院」ができる施設は入院可能患者数を、 ml-tokyo-hd@tokyo-hd.jp へお知らせください。 b) 災害地で、発災時入院透析を行っていた患者を受け入れて入院加療を継続できる施設は、入院受け入れの可能性を検討の上、 ml-tokyo-hd@tokyo-hd.jp へメールでお知らせください。入院加療を行える診療科などの情報もお知らせください。 c) 震災で外傷を受けた透析患者の受け入れができる施設は ml-tokyo-hd@tokyo-hd.jp へメールでおしらせください。受け入れ可能な重症度、ICU 透析が可能な場合もご連絡ください。 <p>2) 外来透析施設へのお願い</p> <p>東京都区内に避難し、自分で宿を確保できる患者の外来透析を引き受けてくださる施設は、 ml-tokyo-hd@tokyo-hd.jp にご連絡の上、医会災害登録へ登録願います。登録のホームページは下記です。</p> <p>http://www.saigai-touseki.net/sendsdata/sendsdata.php</p> <p>登録いただいたデータは自動集計され、全国の登録集計結果は下記の頁でご覧になります。</p> <p>http://www.saigai-touseki.net/sendsdata/total.php</p> <p>3) ここ数日で「透析の確保」ができたら、次は「透析施設の復旧」です。後日災害地へのスタッフ派遣のご依頼などを行うこととおもいます。</p> <p>4) 事務局衛星携帯電話番号は 001-010-8816-414-***** です。</p>
2011/03/14 (月) 12:47 新潟の情報	***** [*****@ med. niigata-u. ac.jp]	joho_ml@ saigai- touseki.net	<p>[joho_ml]</p> <p>前略</p> <p>** 先生よりのご指示に従って新潟県での受入れ可能患者数をまとめておりましたが、ここにきて「東北電力（新潟は東北電力管内です）も東京電力と同様に予定停電を検討している」というニュースが入り、先行きが不透明になりました</p> <p>これがきっちり決まるまでは各施設とも具体的な受け入れ可能数が示せない可能性があります</p> <p>申しわけありません、東北電力から次の発表があるまで、もう少し時間をおいてください</p> <p>** 大学医歯学総合病院</p>

日時	発信者	受信者	内容
2011/03/14 (月) 18:41	***** [*****@ med. niigata-u. ac.jp]	joho_ml@ saigai- touseki.net	<p>[joho_ml]</p> <p>新潟県の透析患者の受け入れ状況ですが、各施設の状況を総合して現時点では 120 人まで可能です この中には入院施設も含まれ、何人かは入院透析も可能です 救命センターを併設した施設は 5 施設です 重症患者／合併症のある患者の受け入れも賄えます 長期にわたって外来透析を行う場合、その間の患者の滞在施設は新潟県福祉保健部が対応すると約束してくれました 移送手段については今のところ話は決定していません（どこから来るかという問題もあります） 新潟県内の公共交通は問題ありません 新潟空港、新潟港、直江津港、両津港なども問題なく機能しています ただ、福島県へ通じる JR 磐越西線と磐越自動車道は通行できません ただし、新潟県南部では三陸沖の地震の直後から地震が多発し、最大は震度 6 にも達しています（今のところインフラの被害はありませんが） また、女川原発のダウンに伴って東北電力も計画停電を考慮中と報道されています これらの展開によっては、今後受け入れ可能人数が変わってしまうかもしれません また状況が明らかになったらご連絡します とりあえず腰だめの数字を</p>
2011/03/15 (火) 14:37 新潟へ福島県い わき市の透析施 設より、透析患者 1100 人の移送を 非公式に打診あり	***** [*****@ med. niigata-u. ac.jp]	joho_ml@ saigai- touseki.net	<p>[joho_ml]</p> <p>事態はいよいよ緊迫感を増してきました 今朝は機器が不足した会津地方にダイアライザーなどの緊急輸送を斡旋しました</p> <p>さて、先程、福島県いわき市の透析施設より透析患者 1100 人の移送を非公式に打診されました 放射線被爆の問題から「できるだけ早く移動したい、そのためにはまず隣県の新潟に」という趣旨でした 切羽詰まった関係各位の皆様のお気持ちはよく理解できましたが、移送手段や宿泊施設の問題等もありますので、とりあえず行政を介してもらって形の上では新潟県知事からの指示ということで要請に応えたい、と回答し、現在根回しをしております しかしながら、1100 人というハードルはあまりにも高いです 週末にお願いしたアンケートでは Max でも 200 人ちょっとという回答でした それに加えて新潟でも明日から持ち回りの計画停電が予定されています 機材のストックももちません 各施設にお願いして、ない余裕を振り絞ってもらって、なんとか 400-500 人程度の透析ベッドを確保することができそうな見込みになりました でも長期は無理です 緊急のことですのでまずはいったん新潟に避難してもらって、そこから全国の受け入れ施設に引き取っていただくことはできないでしょうか？ 行政と一緒にになって引き受け下さる都道府県医会がありましたら是非とも手を挙げてください 宜しくお願い申し上げます</p>

日時	発信者	受信者	内容
2011/3/15 17:47 福島から新潟へ 200名避難の情報	秋葉隆 [*****@ kc.twmu. ac.jp]	ml-tokyo-hd@ tokyo-hd.jp	<p>都区部災害時透析医療ネットワーク会員各位</p> <p>緊急の要請</p> <p>福島の原発の避難指示の拡大に伴い、いわき市の透析患者1200名が避難することとなりました。</p> <p>磐城泌尿器科系が約1000名、かもめ系が200名とのことです。</p> <p>磐城泌尿器科 ***** 院長が **** 大 **** 先生と連絡して、現在新潟での治療を模索中とうかがっています。まだ移動手段などの伝手は出来ていないと聞いています。</p> <p>新潟のcapacityは200名程度でとうてい足らないこと、さらに70名程度の療養病棟入院患者の引受先を求めていました。</p> <p>昨日下記のように「社会的入院可能とご連絡いただいた施設」のご報告をいただきました。</p> <p>各施設には、直接ないしは、**** 院長から依頼を受けた東京女子医科大学泌尿器科の **** 先生からご依頼させていただくこととなると思います。</p> <p>しかしながら、70名にはほど遠い現状です。</p> <p>いわき市以外にも避難が広がる恐れがあり、再度会員施設にお願いします。</p> <p>「療養病棟入院透析患者」の入院加療を引き受けいただける施設は、ml-tokyo-hd@tokyo-hd.jpへご連絡ください。</p> <p>秋葉 隆</p>
2011/03/15 (火) 18:14	秋葉隆 [*****@ kc.twmu. ac.jp]]	joho_ml@ saigai- touseki.net	<p>透析医会御中</p> <p>磐城泌尿器科 **** 院長と電話が通じました。</p> <p>「現在、いわき市内の透析患者1200名について患者・家族の避難の意向を確認中だそうです。</p> <p>これまで新潟の **** 先生と連絡をとって、新潟県内での対応をお願いしてきたが、capacityなどから、東京に（も）お願いする方向で検討中である」とのお話でした。</p> <p>「現在市県に働きかけて県知事の要請による自衛隊による移送を模索中であるが、結論は出ていない状況である。明日までに結論を出し、（東京に）依頼することとなるだろう。」とのことでした。</p> <p>下記のように、都区部災害時透析医療ネットワーク会員には「緊急の要請」で原発避難患者への対応をお願いしました。もし、自衛隊が東京に輸送してくれることになれば四谷の防衛庁（？）に着いて都内の各透析施設にお願いすることとなるかと思います。この場合、宿泊の手配（付きそい家族もふくめ）を行政、または東京電力？にお願いせざるを得ないので、医会のお口添えよろしくお願いします。**** 院長から連絡があれば、またメールします。</p> <p>秋葉 隆</p>
2011/3/15 18:16 新潟避難患者の首 都圏での一時透析 打診	*****@gmail. com	秋葉隆 [*****@ kc.twmu. ac.jp]	<p>秋葉 隆先生</p> <p>ご無沙汰しております。ご存知と思いますが、いわき市の透析患者1100人が、原発からの避難に伴い、透析施設をどこかに求める必要があります。</p> <p>相当数を新潟で引き受けいただけるようですが首都圏で一旦透析をして、その後関西、九州などで移る必要があるかもしれません。秋澤理事長にもご相談しておりますが、ぜひ先生のお力も頂きたくよろしくお願いします。</p> <p>*****</p>
2011/03/15 (火) 19:32 都への避難所要請	秋葉隆 [*****@ kc.twmu. ac.jp]]	*****@ member. metro. tokyo.jp	<p>福祉保健局 保健政策部 疾病対策課長 **** 様</p> <p>先日来、散発的に避難してくる被災地の透析患者を受け入れてきました。</p> <p>本日から下記のように、原発避難透析患者の受け入れの可能性が出てきました。</p> <p>数十人～百人単位での避難患者の透析と住居（避難所）を確保する必要があります。</p> <p>透析に関しては「都区部災害時透析医療ネットワーク」会員でお世話しますが、（透析患者と家族の）避難所の設置と通院手段の確保を都に要請します。</p> <p>何処の部署にお願いしたら良いかわかりませんので、**** 様にご連絡させていただきました。よろしく関係部署へご伝達ください。</p> <p>都区部災害時透析医療ネットワーク会員代表 秋葉 隆（東京女子医科大学血液浄化療法科教授）</p>

日時	発信者	受信者	内容
2011/03/15 (火) 19:48	秋葉隆 [*****@ kc.twmu. ac.jp]]	日本透析医会 * * * *	***** 先生 先生のご指示に従って、都に振ってみました。 どう反応してくれるか。 秋葉 隆
2011/3/15 20:08	*****@ tokiwa.or.jp	秋葉隆 [*****@ kc.twmu. ac.jp]	秋葉先生御侍史 木全先生御侍史 今回の透析患者の受け入れのご配慮に大変感謝しております。 ときわ会グループを含め、いわき市内の移送を希望する透析患者数が判明しました。 外来通院透析患者：741名（内ときわ会 560名）かもめクリニック 0名でした。 入院患者：54名（内ときわ会 54名） 以上になります。 しかし、外来患者の中には移送の説明をして実際に移動される方がもう少し減ると思われます。その確認作業は現在行っています。被災され避難所に行かれたりして連絡が取れない患者がいて確認作業にてこずっています。 移送に関しては現在、県の方で民間バスを手配していただいている。 実際の移動のタイミングはわかり次第ご連絡いたしますのでよろしくお願ひいたします。 +++++ 財団法人ときわ会 いわき泌尿器科病院 新村浩明
2011/3/15 22:05 **** 院長が東京へ 400人といつてい る？との情報	*****@gmail. com	秋葉隆 [*****@ kc.twmu. ac.jp]	秋葉 隆先生 いわき泌尿器科の **** 先生のお嬢さんが当科の医局員という関係で、関与させていただいております。**** 院長とお話ししました。搬送は県災害対策本部のバスチャーターで、明日出発になりました。入院透析 80名を含め 740名が移動対象で、東京に約 400 人とのことです。大変な数ですね。 いわき泌尿器以外の施設からも来るようです。 入院透析はこの近隣帝京、順天堂、日大、板橋中央でも受けれる旨 *** 教授より伺っておりますが、外来患者さんには、議員が動いて豊島区で居宅を提供いただける可能性があり、明日以降ご連絡いたします。
March 15, 2011 11:09 PM	秋葉隆 [*****@ kc.twmu. ac.jp]]	新村浩明	新村先生 *** 先生から「いわき市からチャーターバスで透析患者 400 名、東京へ避難」との情報を得ています。確認させてください。 1) 何時に出発予定でしょうか。 2) 400 名全員が透析患者でしょうか。 3) 外来患者何名、入院患者何名、付き添い家族何名でしょうか。 4) 全員住まいの当てのない方と考えてよいですか。都に要請をしていますが、避難所の目算はまだたっていません。 5) 到着予定、途中で移動状況をお知らせいただけませんか、付き添うスタッフに秋葉の携帯番号をお知らせいただけませんか。***-***-*** です。 6) バス何号車に何人かお知らせください、避難所がどこになるか、目的地都内のどこに向かっていただくか、避難所が決まり次第電話連絡します。運転手との連絡法もお知らせください。 7) 到着しだい透析をすぐにしなければいけない患者（中 3 日になる患者）はどのくらいいらっしゃいますか。その患者さんは同じバスに乗ってきますか、分散しますか？ 秋葉隆

日時	発信者	受信者	内容
2011/3/16 6:50	新村 [*****@ tokiwa.or.jp]	秋葉隆 [*****@ kc.twmu. ac.jp]	<p>秋葉先生御侍史</p> <p>おはようございます。ご連絡が遅くなり申し訳ございません。 不確定な情報が錯綜しご迷惑をおかけしていることをお詫びいたします。 現在、確定していることは、昨日お伝えした通り 外来通院透析患者：741名（内ときわ会560名） 入院透析患者：54名（内ときわ会54名） を移送し、 この約800名の移送を福島県に依頼しているところです。 福島県からは、チャーターされるバスがいつ手配可能かの連絡がまだありません。 そのため、「早ければ」、本日県から連絡がきて、本日以降のいずれかのタイミングで出発できる可能性があると想定しています。しかしこれは行政にお任せしていますので、県の対策本部も原発等で混乱しており、透析患者の移送は優先順位がさして高くないようで、実際いつバスが手配できるか全く持って不明なのが現状です。</p> <p>また東京と新潟の割り振りですが、これは全く決定事項ではありません。先生からいただいた情報をもとに、****院長が東京と新潟で約半々で割り振りになるであろうかと判断したした数字が400人です。これは全くのおおよその数字で確定したのではありません。数字だけが先に独り歩きしてしまい大変申し訳ございません。</p> <p>まずは都内での受け入れ可能患者数が確定させ、その残りを新潟に依頼することを考えています。新潟は800まで受け入れ可能とのお話があるようです。ときわ会には都内には大塚台クリニックがあり、この施設でできる限りの外来通院透析患者を受け入れたいと考えています。しかし大塚台クリニックでの受け入れ人数はせいぜい50人程度かと考えています。この大塚台クリニックでの最大受け入れ人数を現在検討中で、こちらから透析スタッフを送り夜間透析の延長なども考えています。</p> <p>本日、再度県にバスのチャーターの状況を問い合わせます。また移送患者の精度の高い人数を調査しております。バスに乗れる人数に限りがあり、原則付き添い家族はありません。また住居はこれから東京都を含めお願いする予定です。バスや東京での住居／避難所が確定し出発できるまでは、いわきで透析を続ける予定です。 情報が確定次第ご連絡したいと思います。今回は大変お手数をおかけいたします。 新村及び***院長は原則いわき泌尿器科病院にいますので、お手数ですが至急の連絡があればお電話いただければすぐに対応できると思います。何せ現場が混乱しており、ご連絡が不十分になりがちの現状をご容赦ください。</p>
2011/03/16 (水) 8:55	秋葉隆 [*****@ kc.twmu. ac.jp]]	'東京都区部災害時透析医療ネットワーク'; 'j.shin'	<p>日本透析医会 日本透析医学会 都区部災害時透析医療ネットワーク会員 各位</p> <p>福島県いわき市磐城泌尿器科病院の新村浩明先生からの情報です。微妙な内容が含まれますので、「一般公開」はお控えください。 約800名の透析患者が後方移送を臨んでいらっしゃいます、 新潟と東京で受ける方向で対応策を模索中です。 都への移送は県の移送（チャーターバス？）と都に依頼している避難所の用意、透析施設の確保がキーです。 本日中に目途をたてたいと思います。 ご協力よろしくおねがいします。 都区部災害時透析医療ネットワーク 2011/3/16 6:50:00 の新村先生のメール添付</p>

日時	発信者	受信者	内容
2011/03/16 (水) 9:19	***** [*****@ med. niigata-u. ac.jp]	joho_ml@ saigai- touseki.net	<p>[joho_ml]</p> <p>追伸 いわき市の現状) いわき市は現在、電気は通っていますが断水中です。いわき泌尿器科病院は透析施設があるため優先的に水道が復旧しています。しかし市内の透析施設で水道が復旧しているのはいわき泌尿器科だけでその他の透析施設は断水中です。 また物流がほぼストップしていますので、ガソリン、食料、医薬品、ダイアライザー、などは全く供給されておりません。そのため、水道の復旧したいわき泌尿器科に患者を集中させて透析をさせることもアイデアとしてはありましたが、ガソリンが全くないため患者の通院が不可能な状況になっています。スタッフでさえガソリンがなく通勤に困り病院に泊まり込んでいる人もあります。 また原発の爆発事故以来、いわき市内ではパニックに近い状況で、昨日は市外へ逃避する車で国道が終日大渋滞となっていました。医療スタッフも原発の不安から職場放棄する者も現れ、またそうでなくとも不安のため士気が非常に低下しています。このような状況で透析医療を継続することは非常に困難と判断しております。本当に何卒ご高配をよろしくお願いします。 こうした個人レベルの臨時透析をどんどん受けていると、昨日新潟県に提出した受け入れ可能リスト通りには患者を受け入れられなくなります したがって、本当にいわき市から大勢の患者を引き受けるなら、こういう個人レベルの依頼は全てお断りしなければなりません 以上から、現時点（3月16日午前9時）では、とりあえず新潟県内透析施設に電話で打診された県外からの個人レベルの臨時透析依頼はお断りするようお願いしています そして、実際に大口を引き受けるのか、それとも引き受けずにこれら個人依頼を引き受けているのか、新潟県に判断を依頼しています 本日の午前8時30分に新潟県の危機管理担当の方とお話しして、上記の経過を説明し、速やかな決断をお願いしました 個人依頼はどんどん増えていますので、決断は速くなければいけません しかし、事態が混沌を深めているのでコントロールはどうしても必要です もちろん行政マターであると思いますが、もはや自治体が管理できるレベルからも逸脱しています 是非とも中央官庁にも積極的に介入していただきたいと思います これも昨日のうちに新潟県福祉保険部に申し入れ、賛同していただきました 以上、経過をご報告致します 決して先走らず、冷静に行動していただきたいと存じます</p>
2011/3/16 9:06	*****@gmail. com	*****	<p>福島県いわき市で、市内の透析患者1100人が、水不足物資不足で24時間以内に県外搬送が必要です。いわき市では重症患者が物資不足でなくなり始めています。</p> <p>>>> いわき泌尿器科病院 *** 理事長 >>> 携帯090*****が中心に動かれています。福島県災害対策本部が昨日まで >>> チャーターによる県外搬送を確約していましたが、今日になって急にバ >>> スを出せないということになり患者の健康状態が危惧されています。足が現在全くありません。 >>> 方法として、東京、新潟からバスをチャーターして迎えに行き、搬送もしく >>> は福島空港から関西への空輸へ必要です。何卒よろしくお願いします。 >>> 〒973-8403 福島県いわき市 ***** >>> Phone) 0246-27-**** Fax) 0246-27-*** >>> 2011年3月15日16:26 **** <*****@umin.net>:</p>
2011年3月16 日 10:46 透析医会理事長が 尽力され中外・キ リンが医会の義援 金に寄付すること で、バスチャーター 代を工面してくれ た。	*****@ med.****. ac.jp	*****@med. teikyo-u.ac.jp	<p>>>> 先生方 >>> バスチャーター資金についてですが、キリンと中外が透析医会の義援金口座に寄付い >>> ただくこと、承諾して下さいました。 支払いは日本透析医会となります。 この情報 >>> をどこに伝えればよいか、ご指示下さい。 >>>*****</p>

日時	発信者	受信者	内容
2011/3/16 12:29	山崎 親雄	**** [****.****@ mhlw.go.jp]	<p>厚労省健康局疾病対策課 課長補佐 **** 先生 東京女子医大腎臓総合医療センター 血液浄化療法課 部長 秋葉 隆先生</p> <p>**** 先生 先ほども連絡しましたように、 たとえば受け入れ側でバスをチャーターし、迎えに入り、東京都へつれて出るとい う費用を、日本透析医会の義捐金で負担することは、秋葉 隆先生も了解済みです。 なおこのメールは、秋葉 隆先生にも送られます。</p> <p>秋葉 隆先生 日本透析医会がこの件で関与できるのは、上記の通りですが、さらに何かがあれば、 ご連絡ください。 できるものは、やらせていただきます。 なお、**** 先生から、日本透析医学会の災害対策小委員会で、上記のような、「外か らバスをチャーターし、迎えに入ってつれてでてくる」という検討も行なわれてい るようです。 **** 先生か、**** **** 委員長が関与していると尾も追います。</p>
2011年3月16 日 12:29 3月17日にバス チャーターできた との連絡	****@med. teikyo-u. ac.jp	秋葉隆 [****@ kc.twmu. ac.jp]; 秋澤 忠 男先生	<p>>> ありがとうございました。クラブツーリズム *** さん 090*****のご尽力で常 磐道近辺の観光バス 25台スタンバイしています。搬送が必要かどうかご判断いた だければ幸甚です。緊急車両は所轄署で取れることを県警本部長に聞いています。 >> またトリアージして緊急性の高い方から動くのも一つと思います。 >> 現在いわき泌尿器科は原発の避難対象外なので、民間車が行ってくれます。範 囲が拡大すると行けなくなります。ぜひご決断ください。社会的には人道保護なので、 了解されうると思います。搬送時の事故保険が可能かどうか、*** さんとご相談くだ さい。*** さんはボランティアで動いてくれています。 >> また避難場所については、救急災害避難の部局にも東京都医師会から話をして あります。入院透析については帝京も 5 名程度可能と *** 教授から伺っております。 >> ****</p>
2011/03/16 (水) 15:58 新潟避難の話聞 いてない	**** [****@ med. niigata-u. ac.jp]	秋葉隆 [****@ kc.twmu. ac.jp]	<p>秋葉 隆先生 机下</p> <p>前略 > 磐城泌尿器科病院よりいわき市の透析患者の東京への避難要請の進行状況につい > てご報告します (秋葉の注釈) > なお新潟への移送に関しては、「クラブツーリズム」担当者は塩見様から、福島県 > が手配した車 20 台と聞いています。 > 東京経由のお話は聞いていません、 上記の件ですが、新潟は全くお話を伺っておらず、準備はできておりません 非公式な打診があり、それに対して根回しという形の準備はしておりましたが、そ もそもその後に正式な要請がありません 宿舎の問題があるために新潟県にも連絡して担当者がそれなりに用意をしていたよ うですが、そこにも追加連絡はありません みんな途方にくれています、というか、憤っています このたびのこの計画は、1) 誰が、2) どんなふうに、3) 誰に向けて立てられた ものなのですか? 新潟にはいわき以外にも多くの地域から透析患者の移送の要請があり、このいわき からの話が具体的にさっぱりわからないため、これらの要請をお断りしているのが 現状です 申し訳なくて身を切られる思いです さすがにこれ以上患者さんの要請は断れません みなさんが途方にくれているんです 本日中に具体的な要請がなければ、明朝からはこれら個人の要請を受入れます この場合、いわきの方がまとまって新潟へお出でになつても透析施設がもう受け付</p>

日時	発信者	受信者	内容
			<p>けてくれない可能性があります、というか、きっと無理 是非とも新潟県健康福祉部 (*****@pref.niigata.lg.jp)、ないしは *** のもとに、 今回のプロジェクトの発案者から具体的なお話をくださるようお伝えください 今日中にお願いします このままでは、新潟に向かうはずの患者様が難民になってしまいます 宜しくお願い申し上げます **** 大学医歯学総合病院 ***** 拝</p>
2011/03/16 (水) 16:28	秋葉隆 [*****@ kc.twmu. ac.jp]]	'新村浩明'	<p>新村先生</p> <p>下記の件、至急 **** 院長に確認して、新潟との関係を修復してください。 **** 院長先生の「思いこみ」が有るようです。誤解をといてください。 秋葉 隆 (下記:省略)</p>
2011/03/16 (水) 16:51	新村浩明 [*****@ tokiwa.or.jp]	秋葉隆 [*****@ kc.twmu. ac.jp]	<p>秋葉先生御侍史</p> <p>いわきの件で大変ご迷惑をおかけしております。 今、 **** 先生から **** 先生へ連絡を入れて調整を行っています。 経緯は、 **** 先生から **** 先生を窓口に話を進めていました。こちらも寝耳に水 のようなどころがります。大至急調整を図りますのでよろしくお願ひいたします。 +++++++++++++++++++++ 財団法人ときわ会 いわき泌尿器科病院 新村浩明</p>
2011/03/16 (水) 18:09	Isimori Isamu	秋葉隆 [*****@ kc.twmu. ac.jp]; 'KANEKO'; '木 全 直樹'; '村上 淳'; '三和 奈穂 子 (血液浄化 _1989) 区部ネット ワーク受入数 300 をこえま した	<p>秋葉先生</p> <p>18:05 現在透析受入れ件数は 930 人です。 外来 353 入院受け入れは 72 人 + 応談 5 施設です</p>
2011/03/16 (水) 18:5	秋葉 隆	*****	<p>**** 先生</p> <p>いわきに伝えて、「誤解があれば解消するように」お願いしました。 ご連絡一致のものと期待します。 思い込みをとりはずして患者への援助ができればと希望しています。 秋葉 隆</p>
2011/03/16 (水) 20:31	秋葉隆 [*****@ kc.twmu. ac.jp]]	新村先生	<p>新村先生</p> <p>下記は透析医会の災害対策担当者のメーリングリスト [joho_ml] で広く配布された *** 先生の文章です。 部外者にはなにが有ったのかわかりませんが、深刻な「思い違い」があったとおも われます。 ことが終わったら、「信頼回復」をお願いします。 明日が本番です。</p> <p>(1) 都は一生懸命避難所／住居の設定をはかっています（食事を提供するか／有料 か／寝具は？／長期化したら？等決めておかなければ行けないことがたくさん あり時間がかかるそうです。（有料など、これらのこととは我々は保障しません。 都と國の方針通りです）。</p>

日時	発信者	受信者	内容
			<p>(2) 出発の時点で得避難所が決まっていなければ、都内一定の場所をめざしていた だき（東京女子医大駐車場？／都庁？）、途中でバス毎に携帯で行き先（避難所） を連絡する。避難所に到着して、我々が透析施設を指定する。</p> <p>(3) 最終的に途中で避難所が決まっていない場合は都内某所の集合先に到着、避難 所が決定したら、患者に都とわれわれが「避難所」「透析施設」を指示し、避 難所毎にまたバスで移動する。</p> <p>(4) 翌朝など指定時刻に、透析施設に各自の手段で通院する。</p> <p>(5) 透析間隔があいてしまっていて「指定された透析」では間に合わないと、医師 や付き添い医療従事者が判断した場合、自力で東京女子医科大学透析室初診 し、1回だけ透析を受ける。</p> <p>(6) 居住地が「原発直近」で爆風を浴びたなど「被爆」が強く疑われる患者（一次 的には強く限定した患者になると思います）は、周辺の被爆に注意し自力で＊ ＊＊＊＊＊を受診して検査／除染を受ける。</p> <p>(7) バスの運行責任者には、2時間毎に現在地を090-***** 秋葉 へ連 絡するようにしてください。目標到着30分前頃にも再度連絡を入れてください。</p> <p>では、明朝で結構ですが、患者の医療的紹介状をお願いします。 いまも余震が有りました。ご自愛下さい。</p>
2011/03/16 (水) 20:42 区部災害時ネット ワーク会員に400 名の受け入れ活動 することを報告	秋葉隆 [*****@ kc.twmu. ac.jp]]	透析医会理事 各位 joho_ml@ saigai- touseki.net ml-tokyo-hd@ tokyo-hd.jp	<p>透析医会理事各位 透析医学会災害メーリングリスト各位 東京都区部災害時ネットワーク会員御中</p> <p>いわき市の透析患者の避難状況報告です 現時点では「都の避難所は未定」ですが鋭意設定中とのことです。 明日福島の磐城病院を九時に出発、四～五時間かかる（渋滞にまきこまれなければ との前提の見積もりかも？） 透析患者四〇〇名（うち入院患者二六名）、透析スタッフ三五名が同乗します 明朝入手予定の患者名簿により東京都区部災害時ネットワークが透析施設を斡旋し ます。 秋葉隆</p>
2011/3/16 20:59	秋葉隆 [*****@ kc.twmu. ac.jp]]	山崎 親雄 'Cc: 飯野 靖彦	<p>秋葉隆</p> <p>いわき市の透析患者の避難状況報告です 詳細は公開は控えてください。 現時点では「都の避難所は未定」ですが鋭意設定中とのことです。明日には決め られるとの担当者の強い言葉が有りました。 明日福島の磐城病院を午前九時に出発、四～五時間かかる（渋滞にまきこまれな ければとの前提の見積もりかも？） 透析患者四〇〇名（うち入院患者二六名）、透析スタッフ三五名が同乗します、バス は一六台です。 明朝入手予定の患者名簿により東京都区部災害時ネットワークが透析施設を斡旋し ます。 新潟は****先生ルートと****ルートがコミュニケーション不良かと推測しています。 結局は受けってくれるものと踏んでいますが、予断は禁物です、</p> <p>下記は実務者マニュアルです。 明日が本番です。</p> <p>(1) 都は一生懸命避難所／住居の設定をはかっています（食事を提供するか／有料 か／寝具は？／長期化したら？等決めておかなければ行けないことがたくさん あり時間がかかるそうです。（有料かなど、これらることは我々は保障しません。 都と国の方針通りです）。</p> <p>(2) 出発の時点で得避難所が決まっていなければ、都内一定の場所をめざしていた だき（東京女子医大駐車場？／都庁？）、途中でバス毎に携帯で行き先（避難所） を連絡する。避難所に到着して、我々が透析施設を指定する。</p>

日時	発信者	受信者	内容
2011/03/17 (木) 8:04	木全 直樹	新村浩明	<p>新村 先生</p> <p>おはようございます。</p> <p>かなり数が増えていて驚いていますが、対処頑張りたいと思います。</p> <p>バスの割り振りに関してですが、以下は最低限お願いしたいと思います。</p> <p>1. 至急透析が必要な患者は同一車両にまとめる ⇒ 女子医大で透析を行う。 *至急透析とは、中3日以上、高カリウム血症疑などの緊急対象者</p> <p>2. 被曝が強く疑われる患者を同一車両にまとめる ⇒ *****で被曝確認を行う。</p> <p>宜しくお願い致します。</p> <p>木全 直樹 Naoki Kimata MD.</p>
2011/3/17 8:16	[*****@ tokiwa.or.jp] 入院患者一覧 など添付	Takashi Akiba. M.D.,Ph.D.	<p>秋葉隆先生御待史</p> <p>いつもお大変お世話になっております。</p> <p>院長の ****からの指示でメールを送信させていただきます。</p> <p>総務の :*****と申します。</p> <p>時間がなく不備があるかと思いますが お許しくださいますようお願い申し上げます。</p> <p>参加予定数と実数に変更などもあるかと思いますが 何卒よろしくお願い申し上げます。</p> <p>ときわ会 総務 *****</p>
2011/03/17 (木) 8:21	秋葉隆 [*****@ kc.twmu. ac.jp]]	新村浩 明 [*****@ tokiwa.or.jp]	<p>リストありがとうございます (ご苦労、推察されます)。</p> <p>三八六名の氏名いただきました (うち施設・氏名・性別・最終透析日のみの患者一三四名)。</p> <p>1) 感染症など簡単な病歴 (送り状) などは患者が持参されると考えていいのでしょうか。</p> <p>2) このリストの情報だけで透析依頼先を到着までに決定するのは不可能です。しかし決定しなければ進みませんので、乱暴ですがこの情報のみで決めます。</p> <p>3) 約一〇〇名が最終透析三月一四日ですが、節制されていれば (中三日ですので) 明日の透析で可能だと思いますが、そちらで從来高Kの傾向の強い患者を特定できますか。</p> <p>4) そろそろ、宿泊場所が決まる頃かと思います。週発前にお知らせできればいいのですが。</p> <p>5) 必ず入院患者を特定してください。</p>
2011/03/17 (木) 8:46 区部ネットワーク 会員に増加報告協 力依頼	秋葉隆 [*****@ kc.twmu. ac.jp]]	ml-tokyo-hd@ tokyo-hd.jp	<p>ネットワーク各位</p> <p>昨日電話で、****院長から「新潟へお願いしようとしていた四〇〇名のうち、二〇〇名の引き受けの見通しが立たなくなつた。どうにかしてほしい」旨連絡があり、救命上引き受けることとしました。実際に乗車される患者数は定かではありませんが、400名を越える患者数となりそうです。</p> <p>さらに入院施設が不足しています。</p> <p>避難所が都区内に設置されそうなので、避難所からの「通院」を考えて、各透析施設にお願いする予定です。</p> <p>事務局から電話連絡がいきましたらよろしく対応願います、 秋葉 隆</p>
2011/03/17 (木) 9:59 バス出発	*****@nifty. com	秋葉隆 [*****@ kc.twmu. ac.jp]>	出発しました

日時	発信者	受信者	内容
2011/03/17 (木) 10:18	*****@nifty.com	木全 直樹	木全先生 出発完了しました。 外来通院患者は大幅に減少するかもしれません。 集合場所に来れなかった患者が多くいる可能性があります。 来れなかった患者はいわき泌尿器科で再調査し、後日移送となるかもしれません。 現在登場名簿を作成してます。 しんむら
2011/03/17 (木) 10:42	****@tokiwa.or.jp	Takashi AKIBA M.D.,Ph.D.	秋葉隆先生御侍史 いつも大変お世話になっております。 院長の **** からの伝言です。 只今いわきを出発いたしました。 今後ともよろしくお願ひいたします。 財団法人ときわ会 総務 *****
2011/03/17 (木) 10:50	木全 直樹	ml-hukusima@tokyo-hd.jp	各位 当初予定していた避難施設 1 カ所の収容を検討していましたが、1 カ所ではなくなりました。 東京都庁のどの場所（駐車場等）かは未定です。決定次第再度ご連絡します。
2011/03/17 (木) 11:16	**** *****@nifty.com	ml-hukusima@tokyo-hd.jp	1 号車 常磐の入院 丹沢交通 代表 090-3691-**** **** 2 号車 常磐といわき泌の入院 丹沢交通 3 号車 泉クリ丹沢交通 4 号車 泉クリ丹沢交通 5 号車 泉クリ丹沢交通 6 号車 常磐外来 丹沢交通 7 号車 いわき泌 外来 丹沢交通 8 号車 いわき泌 外来 常磐交通 090-1932-**** **** または 090-9236-**** ***** 9 号車 いわき泌 外来 常磐交通 10 号車 富岡クリ 常磐交通 11 号車 富岡クリ 常磐交通 12 号車 富岡クリ 常磐交通 13 号車 竹林クリ エスケー交通 090-9977-**** **** 14 号車 松尾病院 エスケー交通 080-5454-**** **** 15 号車 ゆうクリ エスケー交通 090-3245-**** * * * * * 16 号車 ゆうクリ エスケー交通 090-3044-**** **** 17 号車 ニュータウン エスケー交通 080-**** **** 18 号車 ニュータウン エスケー交通 080-5675-**** **** 19 号車 ニュータウン エスケー交通 090-1694-**** **** 20 号車 かもめクリ 丸井交通 090-5324-**** **** または 090-1798-**** **** 21 号車 かもめクリ 丸井交通 090-5413-**** **** 代表は同じバスのなかで無線で連絡するそうです。
2011/03/17 (木) 11:27	***** *****@ h.voda fone.ne.jp]	ml-hukusima@tokyo-hd.jp	わかりました 報告です - 先程の人数確認のあとに 自分で昨日透析施設を見つけたので都内で降車希望がありました - 新宿での降車でいいそうです - したがって 12 名です -----
2011/03/17 (木) 12:03	[*****@ h.vodafone. ne.jp]	ml-hukusima@tokyo-hd.jp	確認いたしました 今 岩間を通過しました

日時	発信者	受信者	内容
2011/03/17 (木) 12:26	*****@nifty.com	ml-hukusima@tokyo-hd.jp	<p>いま谷田部です。</p> <p>人数の変更があります。</p> <p>外来通院患者 362</p> <p>入院患者 49</p> <p>になります。男女べつは確認します。</p> <p>On 2011/03/17, at 12:15, *****@member.metro.tokyo.jp wrote:</p> <p>(日) 今どこにいますか、30 分ごとくらいに教えてください。</p> <p>(月) 男女別人数 おしえてください</p> <p>(火) 403 名のうち 外来透析人数</p>
2011/03/17 (木) 12:48	木全 直樹	ml-hukusima@tokyo-hd.jp	<p>ご連絡ありがとうございます。</p> <p>2時以降に都庁に着くと考え、当院から向かいます。</p> <p>まず、第一本庁舎駐車場所に向かって下さい。その後会議室に移動したいと思います。</p> <p>駐車場所は、第一本庁舎 2階中央駐車場</p> <p>集合場所は、5階会議室予定</p> <p>東京都庁には、木全が向かいます。そこで以後の相談しましょう。</p> <p>本部の担当は、岡野先生、石森先生となります。</p> <p>宜しくお願い致します。</p> <p>木全 直樹 Naoki Kimata MD.</p> <p>On 2011/03/17, at 12:26, *****@nifty.com wrote:</p> <p>いま谷田部です。</p> <p>人数の変更があります。</p> <p>外来通院患者 362</p> <p>入院患者 49</p> <p>になります。男女べつは確認します。</p>
2011/03/17 (木) 12:38	***** *****@nifty.com	ml-hukusima@tokyo-hd.jp	<p>現在守谷</p> <p>1と2号車はいまやっと出発です</p> <p>20と21号車は救急車要請でおくれてます</p>
2011/03/17 (木) 12:41	*****@ezweb.ne.jp	ml-hukusima@tokyo-hd.jp	<p>1号車と2号車ですが、常磐病院を出発してもう少しで湯本インターです。</p> <p>2号車で常磐病院入院患者を乗車できた直後、富岡クリニックから転院されて来た2名が続けて急変したため時間がかかってしまいました。</p> <p>車内の患者さんに大きな動揺は見られません。</p> <p>連絡が取れずに申し訳ありませんでした。</p>
2011/03/17 (木) 12:48	木全 直樹	木全 直樹	<p>ご連絡ありがとうございます。</p> <p>2時以降に都庁に着くと考え、当院から向かいます。</p> <p>まず、第一本庁舎駐車場所に向かって下さい。その後会議室に移動したいと思います。</p> <p>駐車場所は、第一本庁舎 2階中央駐車場</p> <p>集合場所は、5階会議室予定</p> <p>東京都庁には、木全が向かいます。そこで以後の相談しましょう。</p> <p>本部の担当は、岡野先生、石森先生となります。</p> <p>宜しくお願い致します。</p>
2011/03/17 (木) 12:59	木全 直樹	ml-hukusima@tokyo-hd.jp	入院者もまず、都庁に行って下さい
2011/03/17 (木) 13:13	*****@ezweb.ne.jp	ml-hukusima@tokyo-hd.jp	<p>ご指示頂きありがとうございます。</p> <p>ご迷惑をおかけして申し訳ございませんでした。現在1.2号車は日立北のインターを過ぎました。よろしくお願ひいたします。</p>

日時	発信者	受信者	内容
2011/03/17 (木) 13:16	*****@nifty.com	ml-hukusima@tokyo-hd.jp	集合場所について、バスは待機でよいですか？その後、避難場所にバスで移動ですか？
2011/03/17 (木) 13:13	*****@ezweb.ne.jp	ml-hukusima@tokyo-hd.jp	ご指示頂きありがとうございます。 ご迷惑をおかけして申し訳ございませんでした。現在1.2号車は日立北のインターを過ぎました。よろしくお願ひいたします。
2011/03/17 (木) 13:39	*****@ezweb.ne.jp	ml-hukusima@tokyo-hd.jp	13号車(竹林)が守谷を過ぎました。との連絡がありましたので、ご報告いたします。
2011/03/17 (木) 13:48	*****@nifty.com	*****@nifty.com	1と2号車はどちらですか？ 8号車は向島で首都高渋滞はまりました しんむら
2011/03/17 (木) 13:51 バス到着	*****@h.vodafone.ne.jp	ml-hukusima@tokyo-hd.jp	7号車は間もなく首都高を降りるそうです ----- 1と2号車はどちらですか？ 8号車は向島で首都高渋滞はまりました しんむら
2011/03/17 (木) 13:52	*****@ezweb.ne.jp	ml-hukusima@tokyo-hd.jp	現在、1・2号車はもう少しで水戸インターです。 報告が遅く申し訳ありませんでした。
2011/03/17 (木) 14:18	*****@nifty.com	ml-hukusima@tokyo-hd.jp	8号車到着 しんむら
2011/03/17 (木) 14:57	ml-hukusima@tokyo-hd.jp	ml-hukusima@tokyo-hd.jp	1・2号車は首都高に入りました。
2011/03/17 (木) 15:18	*****@ezweb.ne.jp	ml-hukusima@tokyo-hd.jp	1・2号車は首都高をおりた所です
2011/03/17 (木) 20:51	木全 直樹	ml-hukusima@tokyo-hd.jp	移動担当者各位 こちらの不手際で、到着後に大変ご迷惑をおかけしました。 現在8名の方が透析中で、10時30分頃で終了し、各宿舎にお戻り頂く事なる と思います。 明日以降の透析頂く施設のリストなどは、出来るだけ早くお送りしますので、 もう少しお待ち下さい。 宜しくお願ひ致します。 オリンピック村の新村先生には、電子ファイルで全患者のリストをお送り致します。 宜しくお願ひ致します。

[文責：秋葉 隆 (東京女子医科大学)]

5. 東京都庁の動き

東日本大震災における透析患者支援の経過

■ 3月11日 東日本大震災発生 都庁内執務室・その他の動き

厚生労働省健康局疾病対策課より都道府県難病対策課・災害対策課あて事務連絡「災害時的人工透析の提供体制及び難病患者等への医療の確保体制について」が発出される。

内容：人工透析の提供体制については、厚生労働省防災業務計画によることとしているので、社団法人日本透析医会災害時情報ネットワークの活用など、社団法人日本透析医会との連携により遗漏なきよう取り計らい願う」

(参考)「厚生労働省防災業務計画」による人工透析について

- (1) 情報収集及び連絡について、被災都道府県・市町村は、社団法人日本透析医会が被災都道府県に伝達する情報に基づき、広報誌、報道機関等を通じて患者や患者団体へ的確に情報を提供し、受療の確保を図ること。
- (2) 水及び医薬品等の確保について、被災都道府県は、社団法人日本透析医会が提供する透析医療機関における水・医薬品等の確保状況に関する情報に基づき、必要な措置を講ずること。

とされている。

■ 3月12日 福島第一原発事故による避難指示

■ 3月13日 ライフラインの寸断により透析医療サービスが停止

■ 3月15日 夜 都庁内執務室・その他の動き

東京都区部災害時透析医療ネットワーク（以下「NW」という。）の秋葉教授よりいわき市で透析医療確保が困難になっているとの情報提供が疾病対策課長に入る。

その時点の情報は「人数は約450人。全員通院透析患者なのでバスで移動可能なレベル。要介護者が2割程度。到着の予定は16日。」その後深夜に16日はバスが確保できず、17日になるとの連絡が加わる。

■ 3月16日 昼

都庁内執務室・その他の動き

NWより宿所確保の依頼

新潟の受け入れが困難となったため、東京での受け入れは400人から600人に増員とのこと。

<東京都としての透析患者受け入れ方針>

- ・人道的見地から実施する。
- ・都区部透析医会災害情報ネットワークが医療を確保し、東京都が緊急避難的に宿所を確保する。

透析患者であり、さらに、高齢者が多いことから、身体的な負担の軽減を図り、安心して透析医療が受けられるよう東京武道館、味の素スタジアムなどの避難所ではなく、宿泊施設を確保することとした。

福祉保健局総務部において宿所の検討。

人数、性別、要介護状況などの受け入れに当たって必要となる基本的な情報がないこと、宿泊先が複数箇所になる可能性が高いことから、いわき市出発の段階で宿泊先を確定することが困難であることから、到着後はまず都庁大会議場にて状況把握後宿舎の割り振りを行うこととする。

■ 3月17日 未明

都庁内執務室・その他の動き

以下、行動開始。

- ◆宿舎調整、宿舎からの食事提供開始までの食料の準備
- ◆会場設営・受付・案内・説明準備

<17日時点の情報による受け入れ準備>

- ・バス24台 600人規模
- ・第一本庁舎5階大会議室で受付
- ・その後宿舎施設へ
- ・利用案内、受付票、必要物品、案内要員等の準備

◆東京都福祉保健局長より厚生労働省健康局長あて「東北太平洋沖地震及び福島原発事故に伴う被災者の透析医療確保体制について（緊急要望）」提出
内容：

- (1) 地域の医療ネットワークで通院透析医療が確保された場合の避難所は、国の責任において、広域自治体で受け入れる調整を速やかに行うこと。その際、輪番停電の対象外の地域への避難を優先させること。

- (2) 上記調整後は、国の責任において、早急な避難先及び、空路、海路を含めた避難経路を確保すること。
- (3) 透析等の医療確保のため、被災地域の自治体が用意する避難所での避難継続が困難な患者に対しては災害対策法の適用を柔軟に行うとともに、医療確保のためにやむを得ず避難してきた患者のための緊急避難所を設置した自治体に対しては、費用負担について特段の配慮をすること。

◆厚生労働省健康局疾病対策課より都道府県難病担当主管課・災害時人工透析担当課あて事務連絡「被災地の透析患者等の受入態勢の確保等について(協力依頼)」が発出される。

内容：被災地からの透析患者の受入施設及び患者等の宿泊施設の確保及び受入に係る調整等について、特段の配慮・協力の依頼

● 9時

- ・オリンピックセンターについて文部科学省（本省）と交渉開始するも、600人の受け入れは困難とのことで、他施設を同時並行でたる。
- ・昼食用の食料と水の用意。カンパンは確保済み。水等の手配を開始。
- ・夕食用として透析患者用の仕出し弁当を依頼するも、当日発注にしては数が多いこと、地震後の影響による食材や輸送の問題で困難な見込み。
- ・患者・家族・医療スタッフがいわき市を出発。

● 10時30分

人数は不明との連絡あり。

● 10時50分

- ・水ペットボトル600本（2リットル）を確保
- ・昼食用おむすび、カンパン、水について、民間企業の協力により600食確保の見込み

● 14時30分 17台のバスが都庁玄関2階へ到着

都庁大会議場の動き

全員を5階大会議室へ誘導するが、車椅子や介護者を必要とする患者が多いことが判明し、移動に時間を要する。

受付に際し、引率したスタッフより、バスごとに集約した患者個票を提出してもらうこととしたが、未提出者や重複提出者がいた。



- ◆技監から知事紹介、知事の挨拶
- ◆企画担当部長による説明
- ◆NW 秋葉教授の紹介

都庁2階正面玄関の動き

ネットワーク医師より、入院患者を乗せたバスが間もなく到着するが、当初計画では、直接入院先で降車させることになっていたが入院先別に割り振り乗車をさせていないため、医療機関で降車させられない。一旦全員降車させて、医療機関順に乗車しなおすには、マンパワーが不足している。どうやって入院先に移動させるかの相談あり。都庁2階玄関で待機してもらい、移送用の少人数ごとの車の手配を検討してもらうこととする。

入院患者を乗せたバス2台が到着。

5階に患者を移すのかとの相談があったが、そのまま待機するように指示。

● 15時

都庁大会議場の動き

会場から「俺たちは透析をしにきたんだ、早く透析をしろー死んじまうー」などの声があがる。



◆都から状況説明

- ・緊急透析の必要な方＝最終透析から3日以上たっている方がいれば申し出ること。
- ・具合の悪くなった方はすぐに申し出ること。
- ・宿所を決めるための正確な名簿や人数がそろっていないため、現在引率してきたスタッフから情報収集する。待たせることは遺憾であるが、協力していただきたいこと。

◆都から受け入れ方針について説明

日本青年館等複数の施設から協力の申し出があったが、到着した透析患者に要介護者や高齢者が多数含まれていたため、同行医療スタッフによる患者ケアの便宜を図る必要から、分散を避け、受け入れ数の多いオリンピックセンターと日本青年館の2箇所としたこと。

都庁2階正面玄関の動き

いわき市を出発する前にすでに死亡した患者が2名いたことが、バスの中で死亡したとの誤報あり。一時現場が混乱する。

1号車がまず東京女子医科大学へ向かったが、その後、入院受け入れ病院ではないことが判明し都庁へ引き返す。

NW医師（東京女子医科大学医師）と、バスに同乗して来たいわき市内医療機関医師（新村医師）が相談し、リストをもとに、病院別に、3人以下は救急車対応、4人以上は1号車、2号車に病院ごとに集めて移動することとした。その際、主治医から、患者を動かせないなどの要請があったため、調整に時間を要した。

2台の患者について、秋葉教授より入手したリストが受け入れ病院ごとなつていなかつたため、病院ごとの対象者リストを東京女子医科大学のNW事務局より都庁（23階疾病対策課職員）あてにメールで送信してもらうこととした。救急要請に際して、主治医が異なる患者それぞれについて、病状を把握して説明する必要があるため、時間を要した。都が消防庁に要請し、全員が最優先で直ちに搬送されるべきか、ある程度待てる方も含まれているのか、を問われた際、同乗医師の「救急要請が必要」の発言により、緊急性を要しない患者についても「直ちに搬送されるべき」と伝わり消防庁が混乱した。

● 16時

都庁大会議場の動き

引率スタッフは医療機関内の引継ぎ、ミーティング等を行っており、宿舎割り

振りのための打合せには入れず。

医療機関スタッフのミーティングが終わらず、個別調整ができなかつたので、人数の大枠と、車椅子利用者は全員日本青年館に入るという原則で該当医療機関ごとに宿所の割り振りを決定。

都庁2階正面玄関の動き

救急車4台が到着。

1台目（渋谷署）2名（自立1名、半座位1名）

2台目（落合出張所）3名（自立3名）

3台目（目白出張所）1名（座位）

4台目（原宿出張所）1名

● 16時16分

都庁大会議場の動き

患者情報、指示命令系統、介護関係、いずれの点からも医療機関ごとのグループ単位を崩すことは不可能であることが判明したので、以後そのままの移動方法を継続。

オリンピックセンター入所、医療機関6箇所、日本青年館ホテル入所、医療機関3箇所。

都庁2階正面玄関の動き

NW事務局よりメール受信。

送付されたリストを2グループに分け、入院予定患者について1号車と2号車への移動開始。

バス会社から、運転手の勤務時間が超過している、バスの中で死亡したらどうするのか、などの抗議があった。応対した都職員は、詳細情報を共有できていないので判断ができないまま、「患者を運んでもらわなければ困る」契約主体のNWと「労働安全上の契約は守ってもらわなければ困る」バス会社との間に入り、対応に窮した。

バス運転手が移動先の医療機関の場所が分からなかつたため、都職員が医療機関名簿2冊を用意し、ルートを説明。4台の救急車出発。

● 17時53分

都庁内執務室・その他の動き

「今後予測不能な規模停電が起こる可能性がある」とのことから、エレベーターの停止に備え、5階会議場から2階正面玄関に患者を移動。

バス会社からも業務終了を迫られており、宿所の割り振り方針を決めたのみで移動を開始。

● 18時

都庁2階正面玄関の動き

4台の救急車出発時に、消防庁大隊長より、入院患者用バス以外に重症患者がいるとの連絡あり。14号車に、両側大腿骨骨折、発熱(+)の患者を確認。大隊長より秋葉教授に、透析医療機関確保の要請あり。秋葉教授が2箇所の医療機関受け入れ調整を行うが何れも拒否されたため、大隊長が通常の救急要請を手配し大久保病院へ搬送となる。

入院患者用バス2台が入院先へ向けて出発。

都庁から宿泊施設へ向けて出発。

緊急透析が必要な患者は透析医療機関（東京女子医科大学病院）へ移動。

都庁内執務室・その他の動き

以下の事項について都の方針決定

○連絡調整のため、都職員が宿泊施設に常駐する。オリンピックセンターは24時間体制とする（オリンピックセンターの受け入れ条件）。

○患者名簿がないため、宿泊者名簿提出と患者状況確認のため、聞き取り調査を実施する。

○緊急時の対応について

- ・救急車を呼ぶ場合は、医療機関スタッフの判断ですること。都の現地要員にも連絡すること。
- ・オリンピックセンターは夜間は門が閉まっているため、防災センターへ連絡すること。

○入所者数の変動について

- ・退所・入院等により人数が変わるので定期的に医療機関スタッフに確認する。
- ・患者が入院した場合、付添い人が引き続き滞在する場合は、別途宿泊手続きを行ってもらう。

○オリンピックセンターの食事数の変更

- ・22日朝食まで304食で注文
- ・食数の変更は前日の15時までにレストラン支配人に連絡する。

○通院について

- ・自力で行ける人は自力で行く。
- ・介助者がいれば行ける人（歩行等に問題のない人）は、介助者と一緒に行く。
- ・車椅子利用者など、介助者をつけても通院困難な人はタクシーを使う。
- ・通院のためのタクシー手配は都が行う。
- ・タクシー契約

利用は都が手配し行き先を指定

複数名を乗車させたり、方向が同じ医療機関をまとめて乗車させるなど、効率

的な配車に努める。

● 19時40分頃

都庁内執務室・その他の動き

○看護学校のボランティア

- ・要介護者が多いため、看護学校にボランティアを依頼する。

● 20時から18日未明まで

都庁内執務室・その他の動き

上記の方針に基づく聞き取り調査を実施。

現地の各医療機関の職員対象に持参してきた患者名簿をもとに、存在非存在の確認、認知症の有無、移動 ADL、付き添い者情報、全体の正確な男女別人数、必要車椅子台数について聞き取り調査を実施。いわき泌尿器科については、名簿提出がないため、把握できず。

<聞き取り調査等で判明したこと>

- ・医療上緊急入院が必要な患者はすでに入院していた。
- ・生活介助の必要な患者が多い。送迎つきでの通院透析を行っていた患者が相当数おり、それらも通院患者として把握されていた。
- ・移動に車椅子が必要だが、車椅子を持参せず、介助者もいない患者が少なくない。
- ・生活全般に見守りが必要な認知症患者もいる。
- ・病名や必要な病状が記載された名簿等がない。
- ・住所、保険の不明な患者がいる。
- ・付き添い者の把握ができていない。
- ・複数の医療機関の集合体である。
- ・各医療機関内での指揮命令系統が明確でない。
- ・生活管理上医療機関ごとの単位となり、分離は不可能。
- ・現地の医療機関スタッフの業務が多く、圧倒的に人手不足であり、都の情報整理のために割ける時間がない。

医療機関スタッフが担う業務：通院手配、患者の病状把握、通院先から提供される医療情報の管理、急変者の入院手配、入院した患者の連絡対応、食事や入浴介助、地元の家族からの連絡対応、患者の生活上の問題に関する対応

- ・都の情報収集に対し、情報非開示の姿勢を示し非協力的な医療機関が多くあった。

上記のことから、都としては現地の医療機関スタッフによる宿所の運営を主体としつつ、スタッフの負担の軽減が図れるよう、スタッフ機能を補完する、総合的な支援を行うことを方針とした。

＜入院患者の選定＞

宿所入所後深夜～18日、19日にかけ現地医療機関医療職らの意見および担当医による最終判断により入院患者を選定。

介護・通院補助にかかる介護負担の大きさ、患者の精神状態について、看護師からの情報を加えながら、各医療機関の医師の意見を聞いて最終的に判断。患者情報が不十分であったため、全医療機関の選定についての客観的な判断が困難であった。

車椅子を手配しても介助者確保が不可能なものについては、食事・入浴の確保、生活の安全面確保の観点から入院としたケースもあった。

入院医療機関確保、調整は都が実施。

● 18日

都庁内執務室・その他の動き

看護学校ボランティア活動開始

オリンピックセンター 3月18日～24日 109人

日本青年館 3月18日～31日 131人

東京女子医科大学木全医師より、入院が必要な方へ、社会的入院50～80床提供可能との連絡が入る。常磐病院の患者はほとんどが要通院介助で職員も不足していたため、自立の方を除くリストを都が作成。FAXにて東京女子医科大学に送付。

午後に東京女子医科大学に連絡し、入院手続きは全て終了したことを確認。

午後より日本青年館のタクシー通院開始。

原発避難区域から来た富岡クリニックから、通院のための交通費がないとの相談があった。

また、着替え、オムツ等の介護用品、ひげそり等の日用品がないとの相談があり、これらを調達し、19日夕方に届ける。

17時、東京都消防庁救急医療課より「本日13時40分に日本青年館より救急車の出動要請があったが、到着すると該当患者はすでに病院に向かっていたなど、不適切な使用と思われる」との連絡が入り、以降は宿泊施設の利用患者数を定期的に消防庁に報告し、協力を仰ぐ。

● 18日未明～19日

都庁内執務室・その他の動き

「透析病床確保リスト」が病院経営本部から福祉保健局に提示された。

リストに示された各病院の窓口担当者に対し、「氏名、性、年齢、合併症、移動レベル」のみの情報を元に、都より電話にて受け入れ依頼。入院内定後、具体的な申し送りについては、現地医療機関スタッフにより入院先スタッフに対

して直接行うよう調整。

● 19日

都庁内執務室・その他の動き

オリンピックセンターのタクシー通院開始。

都議から総合防災部に照会があった。

● 20日

都庁内執務室・その他の動き

東京女子医科大学東医療センター血液浄化部長から、日本青年館から通院している患者について、遠いため、体力的にも経済的にも負担が大きく、荒川区で区営住宅を確保してほしいとの相談があった件についての照会。

都より荒川区に確認。区では区営住宅の空き戸数は都に報告しており、都での状況を見るとのこと。

都より東京女子医科大学東医療センター血液浄化部長に説明。

- ・入所者も要介護者が多いが、区等が提供できる施設は自立した方という条件である。施設単位でスタッフとともに移動が必要である。
- ・都がタクシーを用意しており、費用負担はない。
- ・法人および各医療機関医師に対し、以下を伝えた。

①都としては、入院については住居問題が発生しないため透析可能医療機関への入院を個別にすすめてかまわない。ただし、施設管理上の責任があるため事後報告はしてほしい。

②透析外来の近隣に住居を確保する際は、事前に都に一報し、相談していただきたい。福祉施設や公営など、公的な性格を持つ施設の場合は、都から相手先に連絡をする必要があるためである。

以上について、血液浄化部長より了解を得る。

● 22日

都庁内執務室・その他の動き

オリンピックセンター延長利用の条件（宿泊者数の縮小）のため、92人をJICA（独立行政法人国際協力機構）へ移動。

● 24日

都庁内執務室・その他の動き

さらにオリンピックセンターから、次の宿泊施設に移動（102人）。

- ・JICA 東京国際センター
- ・日本青年館ホテル
- ・新宿ニューシティホテル

同日 都営住宅申し込み意向調査（全員）

● 4月3日

都庁内執務室・その他の動き

全員退所

[文責：若井幸子（大久保病院）]

I

報告